

★DB1: 集落社会維持システムの事例

データコード	市町村コード	都道府県	市町村	集落	名称(キャッチフレーズ)	関連している法律、制度など	支援機関	取組期間	取組期間(西暦)	取り組んでいる主体	目的	内容	成果	課題	備考	出典
1	322067	島根	広瀬町(平成16年合併し、安来市に)	宮内	蛸と鯉の里づくり～ふるさとの清流をいつまでも残そう～	中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業	島根県	平成11年度	1999	集落	地域の誇れる資源である蛸を活かして集落の活性化を目指す。	◆蛸まつりの実施 ◆鯉の放流 ◆川の清掃	◆集落住民の一体感の醸成、集落外の人達との交流。 ◆住民の環境美化に対する意識の向上。	◆高齢化・独居の増加による事業の担い手不足 ◆事業継続のための財源確保が困難		◆島根県HP http://www.pref.shimane.lg.jp/chiiikiseisaku/chusanran_k/sikk_kigyuu.html
2	322067	島根	伯太町(平成16年合併し、安来市に)	正盟・共和	清流の郷 滝山交流～融和～	中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業	島根県	平成12年度	2000	集落	地域のシンボルである鷹入の滝を中核におき、集落の活性化を目指す。	◆滝まつりの実施(流しソーメン) ◆木工品の開発(高齢者でも可能。茶托、お盆等、特産品化を目指す。) ◆養魚池の整備(ニジマス、鯉)	◆事業の取り組みを通して一緒に自治会をやろうという気運がでてきた。	◆地域集会所の建設 ◆少子高齢化対策 ◆後継者育成 ◆道路の改良		◆島根県HP http://www.pref.shimane.lg.jp/chiiikiseisaku/chusanran_k/sikk_kigyuu.html
3	323438	島根	仁多町(平成17年合併し、奥出雲町に)	小阿井	奥出雲 杵つき餅の里	中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業	島根県	平成11年度	1999	集落	当集落で生産されるモチ米「ヒメモチ」は食味が良い。これを活用した特産品づくりを目指し、集落の活性化を目指す。	◆杵つきセットの購入 ◆に多米を活かした特産品開発(ヒメモチを活かしたに多の強飯、森山おこわ) ◆イベント参加によるに多米、杵つき餅PR(インバウトのあるPRができるようにに多の田園風景と集落名をプリントした TENT を製作、購入。)	◆作業を通しての住民の連携強化。 ◆自ら生産したものを自ら販売することにより、より品質のよいものを作っていきたいという意識が向上。	◆餅つきの体力的負担が大きい。 ◆年末には注文が殺到し、生産が追いつかない。 ◆事業としての継続(生産計画、品質管理、経理等の充実の必要性) ◆高齢化による担い手不足 ◆有害鳥獣による農作物被害		◆島根県HP http://www.pref.shimane.lg.jp/chiiikiseisaku/chusanran_k/sikk_kigyuu.html
4	322091	島根	大東町(平成16年合併し、雲南市に)	若木	栗とウォーキングで明るく健康 若木マロン計画	中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業	島根県	平成12年度	2000	集落	栗園の整備と健康づくりにより、集落の活性化を目指す。	◆栗園の整備 ◆健康づくり(ウォーキング講習、実践) ◆公会所の整備(改装)	◆公会所の整備とウォーキングタイムの設定により、集落内での交流の場づくりになった。 ◆栗の増収	◆栗園の維持管理 ◆栗の増収、加工技術の習得や販路の確保		◆島根県HP http://www.pref.shimane.lg.jp/chiiikiseisaku/chusanran_k/sikk_kigyuu.html
5	322091	島根	木次町(平成16年合併し、雲南市に)	東・漆仁・前川	ふれあいと交流を通した元気な「和の郷」づくり	中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業	島根県	平成12年度	2000	集落	活力のある和の郷づくり	◆湯村ジョギング駅伝大会(県内各地から、44チーム。約500、600人) ◆納涼大会(お盆の帰省者を対象) ◆軽スポーツ大会(グランドゴルフ、ベタンク) ◆各学習会(人権学習、交通安全、料理講習会等)	◆駅伝や納涼祭の開催により、地域のまとまりや他地域との交流が深まった。 ◆和の郷会館の設備の整備により、より快適で住民が集まりやすい会館になった。	◆活性化事業への継続的資金対策 ◆温泉地域事業(公民館等)と湯村地域事業の整合化 ◆定住対策(農地の保全・後継者とそのパートナー)		◆島根県HP http://www.pref.shimane.lg.jp/chiiikiseisaku/chusanran_k/sikk_kigyuu.html
6	322091	島根	三刀屋町(平成16年合併し、雲南市に)	後谷上、後谷下	「弥山・高窪スカイラインロマン計画」守ろう伝統 羽ばたけリンゴ村	中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業	島根県	平成11年度	1999	集落	平成10年に有志を中心として観光農園に向けたリンゴ植栽を行った。補助事業を機会に観光リンゴ園を中心として集落の活性化を目指す。	◆観光リンゴ園(町有借地50aに11種200本のリンゴ苗を植栽。先進地のリンゴ園視察や農協による栽培指導等の栽培技術向上の取組み。平成13年初収穫祭。ミキサーを購入し、ジュース製造にも取り組む。) ◆伝統芸能(獅子舞)の伝承(秋祭りでの奉納、餅まき、豚汁、ぜんざい等の催し、活動の記録・保存、病院施設訪問)	◆集落内の目標が明確化され、住民の励みとなっている。 ◆リンゴの栽培・管理については真剣さがでてきたこと、共同作業の楽しさもあつて皆積極的である。	◆良質なリンゴ生産と収量の増加。 ◆駐車場の整備、休憩所・販売所の設置、選果場の整備により観光リンゴ園として起動にのせる。 ◆リンゴ園のオーナー制度導入の検討。 ◆獅子舞の伝承をビデオ化し、伝統芸能を保存する。 ◆後継者の育成に積極的に取り組む。		◆島根県HP http://www.pref.shimane.lg.jp/chiiikiseisaku/chusanran_k/sikk_kigyuu.html
7	394114	高知	葉山村(平成17年合併し、津野町に)	床鍋	廃校になった校舎を農村交流施設「森の巣箱」として再活用	集落再生パイロット事業(平成12年、高知県)、高知県市町村活性化補助金、村の単独経費	高知県	平成8年に住民から村に申し入れ、平成15年4月にオープン。	1996	「森の巣箱運営委員会」(部落会からの選任。経費は集落住民全員(約130人)の出資のため、全員がオーナー(職員)・村(住民から支援を要請された)	過疎化・高齢化の進行から、集落消滅の恐れがあるため、活性化の取り組みを行う。	◆施設の機能は、一階には集落コンビニ、食堂・居酒屋、浴場、二階には宿泊施設。 ◆集落コンビニには住民の「お店がないのでほしい」というニーズに応えるものとなっている。 ◆食堂・居酒屋は地域のコミュニケーションの場となっている。 ◆宿泊施設は夏は学校関係の合宿に、土日は村外の宿泊者に利用。 ◆年間売り上げは目標をはるかに上回る1400万円、宿泊者数は700人、来訪者は3000人。	◆宿泊者のリピーター確保のため、森の巣箱周辺の整備として遊歩道 ◆公園づくりをしたいが、住民の多くは仕事のため、検討もできていない。運営が運営委員会や一部の住民に任せきりになっている。新たな取り組みを行うには住民全員の協力が不可欠であり、全員がオーナー兼職員であるという意識の浸透を図るとともに、各住民がそれぞれの得意分野で気軽に経営に参加できる仕組みをつくる必要がある。		◆財団法人地域活性化センターHP 「地域づくり百科」 http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/1_all/jirei/2005_renewal/HTML/9jirei/9jirei_08.html ◆財団法人 あしたの日本を創る協会 HP 「ふるさとづくりネットワーク」 http://www.ashita.or.jp/publish/furu/f2003/30.ht	
8	382043	愛媛	八幡浜市	大島	離島漁業再生支援交付金事業	離島漁業再生支援交付金事業(平成17年度離島交付金)	水産庁企画課	平成17年度～	2005	集落	漁業者の減少と高齢化が進み、後継者不足の課題を抱えているため、大島の環境改善と新たな漁業への取組みにより、活性化を目指す。	◆海岸清掃 ◆新規養殖業への着業(アワビ。大島独自の水産ブランド品を目指す。)	◆海岸清掃の実施により、大島地区の環境が改善された。また、島民全体で協力することにより、連帯感強化につながった。 ◆大島ブランドアワビの育成を目指すことにより漁業に対して前向きな姿勢を持つことができた。		◆愛媛県八幡浜市HP http://www.city.yawatahama.ehime.jp/00ka/1kouwan/ooshima/ritougogyou.html	
9	382019	愛媛	松山市	上怒和	離島漁業再生支援交付金事業	離島漁業再生支援交付金事業	水産庁企画課			集落	離島というハンディを抱え、基幹産業である漁業において、漁業社の現象や高齢化が進行している。また、魚価の低迷や燃料費の高騰により、厳しい状況におかれている。以上の事から沿岸漁業資源の維持・増大、漁業環境の保全、集落の活性化、所得の向上を目指す。	◆アワビの稚貝6500個を放流。 ◆水質検査の実施 ◆海岸清掃の実施 ◆密漁や違反操業、違反漁具の使用等から地先資源の保護及び漁具の保全を図るため、漁場監視活動を実施。 ◆水産物の簡易加工に共同で取り組み、イベントで販売した。	◆海岸清掃の実施による自然環境の保全。 ◆新たに水産物の簡易加工に共同で取り組むことにより、地域コミュニティの活性化が図られるとともに、イベントでの加工品販売により都市住民との交流が図られた。		◆愛媛県松山市HP http://www.city.matsuyama.ehime.jp/nourinsuisa/ritoutorikumi.pdf	
10	382019	愛媛	松山市	二神	離島漁業再生支援交付金事業	離島漁業再生支援交付金事業	水産庁企画課			集落	離島というハンディを抱え、基幹産業である漁業において、漁業社の現象や高齢化が進行している。また、魚価の低迷や燃料費の高騰により、厳しい状況におかれている。以上の事から沿岸漁業資源の維持・増大、漁業環境の保全、集落の活性化、所得の向上を目指す。	◆アワビの稚貝8000個を放流。 ◆海域環境の保全と土砂の流出防止のため、コナラを300本植樹。 ◆漁港内の海底のゴミの除去。 ◆漁場監視活動の実施。 ◆水産物の簡易加工に共同で取り組み、イベントで販売した。	◆海底清掃の実施により、自然環境の保全が図られた。 ◆新たに水産物の簡易加工に共同で取り組むことにより、地域コミュニティの活性化が図られるとともに、イベントでの加工品販売により都市住民との交流が図られた。		◆愛媛県松山市HP http://www.city.matsuyama.ehime.jp/nourinsuisa/ritoutorikumi.pdf	
11	342149	広島	安芸高田市	川根地区	お好み住宅		川根振興協議会(住民)			川根振興協議会(住民)	過疎と高齢化が進む中、若者の定住策として。	◆市営住宅を「お好み住宅」に。家賃は月3万円。設計段階から入居者の要望が反映され、20年後には入居者が安く購入できる。 ◆入居の条件:義務教育を受ける子供がいて、20年住む。そして地域づくりに参加する。 ◆公募し、住民が面接する。	◆中山間地の公営住宅としては異例の人気で、1999年から16世帯が入居。さらに7戸の建設が予定されている(2006年6月現在)。 ◆川根小学校の全校児童23人の3分の2を占める。 ◆周辺地区にも影響を与え、川根をモデルとして自治組織がつけられた。		◆岩手日報社HP http://www.iwate-np.co.jp/2006kikaku/tokoton/tokoton53.htm http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki-shakai/shiryo2/siryou4a/kitakata.pdf	
12	342149	広島	安芸高田市	川根地区	地区に1軒だけの商店「万屋」全世帯出資で存続		川根振興協議会(住民)	2000年(平成12年)～	2000	川根振興協議会(住民)	高齢化が進む地区住民の生活を支えるため。	合理化により店舗廃止となった農協を協議会が譲り受け、全260世帯が1000円ずつ出資し、地域での店舗運営を行う。	住民の半分以上が65歳以上の地区であり、高齢化が進む地区住民の生活を支えている。主にお年寄りを訪れ、材から雑貨まで購入する。		◆岩手日報社HP http://www.iwate-np.co.jp/2006kikaku/tokoton/tokoton52.htm	

13	182028	福井	敦賀市	山	伝統を生かし集落活性化をはかる山集落	中山間地域等直接支払制度			集落	「初午祭り」「マナ祭り」を核とした良き伝統を子々孫々へ伝承していくこと。これ以上の耕作放棄地発生を防止し、共同取り組み活動を通して地域の連帯を深めること。	◆農業生産活動(農地法面の点検・管理、簡易な排水改良当の基盤整備) ◆多面的機能増進活動(地域の伝統文化・行事を通して都市住民との交流推進のため、伝統野菜マナの摘み取り園の開園に合わせて「マナ祭り」を開催。S63～)	「マナ祭り」で、従来のイベントに加え「かかしコンクール」を行った結果、1000人を超える参加者を迎えることができ、多くの人々とより深い交流ができた。		◆福井県HP http://info.pref.fukui.jp/nourin/chokusetu-shiharai/tsuruga.pdf	
14	042064	宮城	白石市	犬卒都婆	集落の活性化をめざして	中山間地域等直接支払制度			集落	農業生産の継続とともに、地域・農業に活気を与え、併せて耕作放棄地の解消など農地保存を目指す。	◆集落内市道沿いにアジサイの植栽管理を1500m行い、全員対象の先進地研修を毎年実施。これを契機に村おこしとして「羽山まつり」を開催。 ◆簡易基盤整備(申請農家への対応)、耕作放棄地の復旧と高齢化による耕作放棄が予想される農地の管理を集落で行う。	◆協定締結を機に共同作業により放棄地の復旧・防止がなされ、参加農家個別の基盤整備も進展している。 ◆話し合いや視察研修の成果として生まれた独自のアイデアの実現として近隣集落を巻き込んだ「羽山まつり」が伝統行事として定着し、国の認定を受け、活性化につながった。	今後は遊休農地への飼料作物栽培、販売を行うことも計画しており、中核農家を中心とした集落組織による農地管理、農作業を目指した地域全体の活性化を目指す。	◆宮城県HP http://www.pref.miyagi.jp/muradukuri/h_chusan/01/jireisyuu/h14/siroisi-inusotoba.pdf	
15	313289	鳥取	智頭町	新田(集落NPO、H12～)	都市との交流を契機に集落の活性化を推進	日本1/0村おこし運動(智頭町、H9～)、中山間地域等直接支払制度	智頭町、県		集落(NPO)	過疎化・高齢化の進行する現状に危機感を持ち、都市交流を軸とした集落活性化計画を策定し、これまでに整備した施設の有効活用の推進及び耕作放棄地の防止を目的とする。	◆農業生産活動(水路・農道の管理、農地法面の点検、機械の共同利用) ◆景観形成のためコスモスや蕎麦を作付け。 ◆大阪いずみ市生協と地区民との田植え、福刈り等の農業体験、交流(H3～)。小学生を対象に田植えや福刈りをしながら環境について学ぶ「田んぼの学校」の実施。 ◆伝統文化の保存(人形浄瑠璃芝居の)	◆農業体験により将来を担う子供たちが農業や自然環境に興味を持ち楽しんでる姿を見て、農地を含めた自然環境の保全に対する意識の高揚が図られた。 ◆都市住民との交流により住民の意識が変化し、自治組織「新田村つくり運営委員会」を自らの地域の自立を目指すNPO法人を設立。		◆鳥取県智頭町 新田地区HP http://www2u.biglobe.ne.jp/~SHINDEN/	
16		新潟	越後妻有(十日町市、津南町)	各集落(約200)(約40ヶ国からアーティストを招く)	大地の芸術祭～越後妻有アートトリエンナーレ～		1990年代後半(第一回大地の芸術祭は2000年。以後3年おきに開催。)		越後妻有地域(各集落住民と各国からのアーティストとの協働)	◆アートを通じてそれぞれの地域の特徴を生かしながら、過疎高齢化が進む越後妻有地域の活性化をはかる。 ◆6市町村が機能分担をする広域連携によって推進する。 ◆アートを活用して地域の魅力を再発見し世界に発信する。 ◆公共事業のアート化等統一的地域イメージを構築する。 ◆世界の人々との協働の精神を基底とする。 ◆自然に抱かれた暮らし方を示す地域モデルとなる。	◆公共事業など恒久的な事業と地域住民と協働者の活動の両面におけるアートネットワーク整備事業の成果をアーティストの助力を得ながら3年に一度公開し、広く周知する。 ◆広大な妻有地域を舞台として、芸術作品を山・川・棚田・集落等につくる。作品制作にあたっては、世界各国のアーティストと集落住民が協働で行う。	◆アートによる地域の再発見 ◆アートによる協働(世代、地域、ジャンルを越えた協働。) ◆集落(ローカル)と世界(グローバル) ◆高齢者に対する発想の転換(高齢者の知恵と経験を必要とする。) ◆子供たちと教育 ◆都市と地域の交換(妻有の財産と都市の財産・欠点を補い合い、交換しながら成立する) ◆棚田オーナー制度、農塾等の開催等の都市と農村の交流		◆大地の芸術祭 ～越後妻有アートトリエンナーレ～ HP http://www.echigo-tsumari.jp/	
17	462012	鹿児島	鹿児島市	下田	集落全体で取り組む、都市近郊のキラメク里づくり	きらめくむら創造事業(鹿児島県)	鹿児島県	平成8年～	1996	集落	都市近郊集落で高齢化・兼業化・混住化が進み、共同意識や連帯感が薄れてきたこと、都市化で農村景観が失われてきたこと等に対する危機感から、これらに歯止めをかけること。	◆アイガモ耕作 ◆遊歩道と桜並木の手直し ◆鬼火たきの復活 ◆水田を利用した景観づくり(収穫後の水田に植物で絵文字) ◆下田農作業受委託組合発足	◆話し合い活動が活発。 ◆農作業受委託組合のリーダーは鹿児島市内重点地区むらづくり講座の講師となり、農作業受委託組合の運営等についてモデル的存在となっている。	◆今後も話し合い活動を通して活性化に取り組み美しい農村景観を守る。 ◆地区民の連帯感づくりに努めながら郷土芸能、行事等を通して住みやすい村づくりを目指す。 ◆農業では水稲作業の受委託が最	◆鹿児島県HP http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/data/bunya/g14.39700.html
18	462152	鹿児島	薩摩川内市	東郷町南瀬	子供たちといっしょに花づくり	きらめくむら創造事業(鹿児島県)	鹿児島県		集落	「花づくり」を通じた子供達とのふれあい交流	学校と村づくり委員会が一緒になった「花いっぱい運動会」の開催。休耕田を活用してコスモスを植える。コスモスやパンジー、ポーチュラカを地区民と子供達が栽培し、地区内の沿道や各家庭に配られ花いっぱい運動会を地区全体で展開す			◆鹿児島県HP http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/data/bunya/g14.39700.html	
19	313025	鳥取	岩美町	横尾地区	集落と棚田ボランティアで棚田の維持管理(耕作放棄地解消対策)			平成12年～	2000	地区	ボランティア制度を導入して、ボランティアとともに維持管理が難しくなった棚田の保全を行っている。	◆「日本の棚田百選」に選ばれたのを機にH12年に地区住民で「いがみ田を守る会」を結成しボランティアの導入を始めた。棚田ボランティアは県が運営委託している農山村ボランティア事務局(地元大学生の任意団体「学生人材バンク」)で募集し、水路の管理や福刈り、猪柵設置等の作業を行っている。 ◆作業後には住民と地元料理で交流会	ボランティア導入の決定と同時に棚田オーナー制を始めた。大阪や横浜からも応募があり、H16には8グループ(約40名)が参加。H17には農山村ボランティア事務局も自らオーナーとなった。この取組みにより、年々住民とのつながりができ地域の活性化につながっている。		◆農林水産省 中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/arable/06jirei/jirei/31b_zirei15.htm
20	322016	島根	鹿島町(平成17年に合併し、松江市に)	講武地区	農事組合法人みりの里講武	県営圃場整備事業(H2)、しまね地域農業活性化特別対策事業当(H8～)		平成14年～	2002	地区	農地の保全、農産物の地産地消、組合員の利益だけでなく講武地区全体の発展を図る。	◆集落営農。基幹農作業はオペレーターが行い、水管理や畦畔除草等の軽作業は各構成農家へ再委託。 ◆水稲・大豆の栽培と、受託。 ◆大豆を味噌・にんにく味噌等に加工し、販売。	◆後継者のいない農地の受け皿としての機能を強化。 ◆味噌加工等加工部門の拡大や新規作物の導入等地域農業の多角化を図る。 ◆役員のボランティアの縮小と担い手の育成。 ◆法人が転作部門を全面的に引き受ける。 ◆事務担当の雇用と税務対策。 ◆高収益の園芸作物の導入、新たな加工品の開発。	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html	
21	323438	島根	横田町(平成17年に合併し、奥出雲町に)	八川	農事組合法人三森原	島根水田農業活性化特別対策事業(H7)、棚田地域緊急保全対策事業(H10)、先導的利用集積事業・がんばる島根農林総合事業集落活動支援事業(H11)、法人経営		平成12年～	2000	集落	◆棚田圃場整備を景気とした集落一農場の法人設立 ◆グランドカバープランツによる畦畔管理と景観形成	◆集落営農。基幹農作業はオペレーターが行い、水管理や畦畔除草等の軽作業は各構成農家が分担。農機具は法人保有以外に町農業公社からのリースにより確保。 ◆水稲・大豆・そばの栽培と委託。転作大豆の地産地消型の加工活動を行い、身土不二の農業のイメージづくりと健康食品の商品づくり。	町内ではじめての集落タイプの法人であり、町内で集落営農に取り組む営農集団や意欲のある集落の法人を支援する等、モデルとして先導的な役割を果たしている。	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html	
22	322091	島根	雲南市	湯村	農事組合法人榎之屋ヒーリング			平成10年～	1998	集落	◆癒しと水がテーマの神楽の里 ◆無化学肥料・減農薬の「奥出雲癒し米」をもとに集落の維持	集落営農。水稲、露地野菜、花苗と水稲受託に取り組む。加工部門では餅と赤飯。水稲は全て有機質肥料を用い、減農薬栽培に取り組む。	口コミで顧客が増え、「奥出雲癒し米」の生産が足りない状況になりつつあるため、同じ目的で同じ農法を実践してくれる団体と手を組んでいきたい。	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html	

23	322091	島根	雲南市	神代	農事組合法人フレッシュファーム			平成10年～	1998	集落	農産加工部門との結合による高付加価値化	集落営農。水稲、大豆を生産し、水稲受託、加工部門では味噌、梅、餅、蒟蒻、笹巻きを生産、販売。法人の構成員のみでなく、その家族も従事し、女性は加工部門、高齢者は日常管理、若者は機械作業と能力に応じた役割分担。	条件不利地における集落一農場方式の農事組合法人の設立事例として県内外から数多くの視察者を受け入れている。	◆将来的には地域外から専従を2名程確保したいが、周年雇用や住居等の問題から検討していく必要がある。 ◆消費者交流型農業のための拠点づくりが課題。	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html
24	323861	島根	飯南町	とんぼら門地区	農事組合法人とんぼら門農事組合			平成11年～	1999	地区	希農共栄の郷、圃場整備を契機とした集落一農場の法人設立、ランドカバープランツ(芝桜、松葉菊、アークセカ)による畦畔管理。	集落営農。水稲、大豆、スイートコーン、採種ダイコンを生産し、水稲受託。	ゼロからのスタートによる集落一農場方式の農事組合法人の設立事例として県内外から数多くの視察者を受け入れている。	水稲と転作の小作料は20000円/10aで同一であり、転作部門での収益の安定確保が必要。そのため法人の構成農家で余った労働力を法人で有効に活用するシステムの構築が課題となっており、集団転作大豆や採種大根・野菜の栽培に取	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html
25	325015	島根	津和野町	中山奥ヶ野	農事組合法人おくがの村			昭和62年～	1987	集落	集落営農のパイオニア、お年寄りが死ぬまで集落に住めるしくみづくり、CATVの設置等、活発なコミュニティ活動、若い力(後継者)の芽生え	◆集落営農。水稲と水稲受託。 ◆Iターン等への支援を積極的に行っており、研修生を受け入れ後継者育成の場も提供。	◆中山間地域の集落を維持する為の法人組織として県内外から注目を集め、視察者が千人を超えるようになり、集落周辺への波及効果も大きい。 ◆Iターン支援の結果、Iターンの青年夫婦が集落内に農地と家屋を取得し営農を始めており、法人の一員としての活躍が期待される。	◆稲作の省力・低コスト化が図られ、余剰労働力を活用して新規転作作物として青汁の原料であるケールの栽培に取り組んでいる。法人化のメリットを生かすためにも事業量を拡大し、雇用の創出を図らなければならない。 ◆現在までの活動が、集落の維持・後継者の確保に結びつくことを期待	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html
26	323861	島根	飯南町	頓原上地区(武知、奥畑、張戸、迫、泉川の5集落)	有限会社ファーム木精			平成11年～	1999	地区	集落の発展をめざした攻めの法人化、有限会社による幅広い事業展開、U・Iターンの受け皿としての法人化	◆集落営農。水稲、大豆、キャベツ、ソバ、トマトを生産。水稲受託に取り組み、Iターンの受け入れを行う。	◆集落営農型法人としては県内初の有限会社として注目を集めている。 ◆水稲についてはH14より島根県エコロジー農産物の推進を受け、産直による販売を積極的に行っている。 ◆外部から優秀な人材を確保するため、求人情報誌で募集を行い、Iターン2名を受け入れている。	施設園芸の拡大による経営の多角化が課題であるが、そのためには情報発信や販売ルートの開拓等にも対応可能な人材確保が必要であり、Iターンの受け入れを行う。	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html
27	322032	島根	平田市(平成17年合併し、出雲市に)	金山	有限会社金山グローカルファーム			平成13年～	2001	集落	より一層厳しくなることが予想される21世紀の農業・農村環境を守り育てるために立ち向かう勇気を持つとともに、元気の出る夢のある営農をモットーにグローバルな視野に立つて情勢を見極めながら、よりローカル色を活かした斬新な営業活	◆集落営農。水稲を生産。 ◆北山しようじき村:野菜の直売。S63～。H10からは拠点施設として北山ガーデンを整備し、直売から農業体験等消費者との交流活動にも取り組んでいる。 ◆手作りのランドゴルフ場完成H13	◆法人を核にして、農産物の生産(法人)と販売(産直市)を連携させた地域活性化。 ◆地区内にコミュニティ施設(公園)の整備計画があり、非農家も含めた集落ぐるみの活動へと発展させる	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html	
28	324493	島根	邑南町	河内判場	農事組合法人田吾作			平成8年～	1996	集落	集落一農場型+農作業受託法人、集落営農は本当に気心の知れた人々たちのコミュニケーションから始まる、集落みんなで取り組む楽しみ(家族間のつながり)	◆集落営農。水稲、飼料作物、野菜類、和牛の生産。水稲受託。 ◆集落みんなの集落農業への参加意識を尊重しており、基本的には平等出役・共同作業を行っている。	◆経営受託・作業受託を含めた経営面積20haを目指す。 ◆経営受託・作業受託面積の拡大に対応できるオペレーターの育成と対策。 ◆転作の対応。	◆島根県HP http://www2.pref.shimane.jp/noushin/einou/list.html	
29	344311	広島	大崎上島町	原田	中山間地域等直接支払制度による取組(イノシシ垣の設置など)	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成12年～	2000	集落	高齢化・後継者不足と価格の低迷、イノシシによる被害からの農業生産に対する意欲低下への対策として。また、農道水路等の管理が不十分で車両通行の障害となったり大雨時の排水能力低下が	◆農道・水路の管理。 ◆視察研修。 ◆イノシシ捕獲柵 ◆周辺林地の下草刈 ◆地域活性化活動支援(郷土芸能、行)	農道・水路の管理は非農家も含め集落全体の取組として行われ、かなり改善された。	イノシシ捕獲柵の成果はまだ十分でない。	◆広島県HP http://www.pref.hiroshimajp/nourin/noutai/tyuu/tyuu11.html
30	342149	広島	筒賀村(平成16年合併し、安芸太田町に)	井仁	中山間地域等直接支払制度による取組(棚田を利用して都市農村交流)	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成12年～	2000	集落	日本棚田百選に選ばれた棚田を利用して都市住民との交流を図る。	◆農地の管理、休耕地への花木植栽・管理、鳥獣被害防止柵の維持管理、農道・水路の維持・管理。 ◆棚田まつり、写真コンテストの実施や修景植栽地の管理、体験農業の実施 ◆傾斜対応型の自走式草刈機の導入	◆自走式草刈機購入により、耕作できない人がいても集落内で助け合うことができるようになった。 ◆集落協定外の農地、雑種地等についても、景観の一つと考え、草刈りを行うようになった。		◆広島県HP http://www.pref.hiroshimajp/nourin/noutai/tyuu/tyuu11.html
31	342033	広島	竹原市	郷	中山間地域等直接支払制度による取組(遊休耕地の利用)	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成13年～	2001	集落	耕作放棄地復旧(草刈り機購入) ◆イノシシ被害防止柵、箱罟 ◆農地の耕作・管理、新規作物の導入 ◆景観作物作付け(トルコキキョウ、レンゲ、菜の花) ◆池の維持管理、ビオトープ的利用 ◆小学生稲刈り体験 ◆井戸の維持管理、跳ね天秤復元 ◆会報の発行 ◆朝市への活動助成	◆耕作放棄地の復旧。 ◆農道・水路清掃で集落環境が改善、さらに跳ね天秤・景観作物の作付けにより景観が良くなった。それにより再び農業への意欲が高まり、集落が活性化された。	◆共同作業や小学生稲刈り体験等の行事を通して共通の話題が増え、住民の意思疎通が図られるようになった。	◆広島県HP http://www.pref.hiroshimajp/nourin/noutai/tyuu/tyuu11.html	
32	203823	長野	辰野町	源上	都市部住民と連携した農業体験・交流による農地保全活動	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	横川川上流に位置し訪れる人も多いことから景観保全を主目的に取り組むため集落営農を組織し、管理が行き届かない農地については都市部住民に対してボランティアをよびかけ、農地保全活動に取り組む。	「ふるさと大楽校 農楽部『源上キャンパス』として位置づけ、年5回の農作業(農業体験)の実施。	◆遊休農地解消の啓発事業として町全体への効果大きい。 ◆年5回の作業の食事については地域の女性グループによる食材の提供を受け、郷土料理の継承が図られている。 ◆営農組合の設立で集落外の人たちと交流することにより地域の活性化に繋がっている。 ◆個の農業から地域農業へと移行し	◆1年目は女性に負担がかかる面もあったので2年目からは来訪者が自ら行動するようにする。 ◆「楽しみながらお茶代が稼げればいい」という考えで農産物を市場に出したが、思うような収益とはならなかった。今後は地場での消費と、都市部の特定者との販路を確保するための活動を展開する。	◆長野県HP http://www.pref.naganop/nousei/nouson/sansin/di-jirei.htm
33	204170	長野	大鹿村	梨原	集落内の不在地主農地を、協定参加者が借り受け、農地の管理	中山間地域特設支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	近年増加している鳥獣被害への対策、不在地主の農地保全	◆協定参加者が村外へ転出した農家の農地を借り受け、集落内の農地保全に取り組む。 ◆借り受けた農地で、おはつ桃、ブルーベリー、野沢菜、蕎麦等を栽培し、野沢菜は村内の漬け物工場に出荷、蕎麦は直売。	◆農地保全を地域全体でまとまって取り組むようになった。 ◆生産意欲、農地の管理責任意識が向上した。	◆鳥獣による被害が大きく生産意欲がそがれる。 ◆事業の継続を願う。	◆長野県HP http://www.pref.naganop/nousei/nouson/sansin/di-jirei.htm
34	204854	長野	白馬村	青鬼	棚田を守り、古代米(紫米)づくり	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	「日本の棚田百選」に認定された棚田を保存し、村の特産品である紫米を栽培する。	◆山間部の小さな集落では農業を継続し、棚田を保全していくことが非常に大変であり、用水路の管理だけでも労力がかかるため、H13から村内ボランティアが参加し、連携して水路の泥上げ、方面の下草刈りを行っている。 ◆特産品として紫米の栽培や、遊休農地を利用した「青鬼五月まつり」という田植えイベントや、「青鬼収穫祭」という稲刈りイベント、小学生による田植え作業も行っている。	◆青鬼の紫米は白馬村の特産品として定着し、道の駅白馬で販売され、好評。 ◆水路のボランティア参加、イベントの開催や学童による田植え作業の実施により、一般村民、村内児童の山間部の農業に対する理解が深まることともに、農家の棚田保全や営農の意欲も高まり、遊休農地も年々減少している。 ◆交付金を一つの励みとして、事業調	◆農業の担い手問題が深刻で、後継者がいない。高齢者が少しでも長く営農できるように、管理に手間のかけられない水路改修や遊休化の懸念のある農道に接していない農地について簡易な基盤整備の検討が必要。 ◆日本鹿、かもしか等の鳥獣被害が増大しているため、防除柵の設置等対策が必要。	◆長野県HP http://www.pref.naganop/nousei/nouson/sansin/di-jirei.htm

35	202134	長野	飯山市	小菅の里	交付金を100%共同取組活動に活用、美しい景観の形成・ビオトープ観察会等、多様な活動を展開	中山間地域等直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村			集落	農地・水路・ため池・農道等の維持管理活動を実施し、景観の保全・創出、ビオトープでの自然観察会等多面的機能を増進する活動により集落の活性化につなげる。	◆水路について年4回清掃、草刈を行い、山腹水路については当番制にして定期的に見回りを実施し、災害が起きないようにしている。 ◆景観についてはため池周辺に菜の花を作付けして観光資源としているほか、道路沿いを花で飾る取組を行う。 ◆集落内の南竜湖跡地のビオトープを維持し自然観察会等に役立てている。	◆農地や水路をしっかりと管理して守ろうという気持ちが強くなった。 ◆高齢のため耕地や共同作業が負担になっていた者にとっては、協定締結により安心して作業を依頼できるようになる等不安感解消にもつながっている。	◆小菅むらづくり委員会等と連携し、農業生産活動を充実させるとともに伝統文化や多様な地域資源を生かした活性化への取組みに力を注ぐ。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/sansin/di-jirei.htm
36	352012	山口	下関市	川久保集落(金ヶ峠、大上、向河内、下川久保)	4集落共同による農地の復旧、維持管理	中山間地域等直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村			集落	農業従事者の高齢化、担い手不足から生じる問題に対応していくため。		◆高付加価値型農業の実践の取組み面積の拡大、担い手への農作業委託に向けた協議を進める。	◆農林水産省 中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/chusankan/jirei17/index.htm	
37	324485	島根	美郷町	小松地、別府、惣森、寺谷、志君	近未来・別府風土記(原風景の復興と新風景の創造)	中山間地域等直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村			集落	近年小学校統合による地域の活力の減退や高齢化による地域コミュニティの低下への対策として	◆イルミネーションによる地域のライトアップ(見慣れた地域を明るく美しく再生するだけでなく、一人暮らしのお年寄りの安否確認にも役立っている。)、蛸まつりの実施 ◆花田植えの再現(50年振り。青壮年、婦人会、子供会で早乙女や囃子の役割を分担) ◆地域資源の発掘(銀山街道ウォーク、地元産酒米で作る地酒「銀路」を生産、販売)	◆イルミネーションの全戸設置により気持ちが明るくなり共通の話題が増えたことで地域コミュニティの向上につながった。 ◆蛸まつりの実施により身近な自然への関心が深まった。 ◆花田植えの復活は世代間の交流が深まるとともに消えつつある文化の一つを継承することができた。 ◆銀山ウォークや地酒銀路の販売は、地元の歴史はもちろん地域の自然や産物を見直すきっかけとなり、地域住民が誇れる郷土をあらためて認識で	◆地域行事が増加し、忙しすぎるといふ意見がある。 ◆今後も継続的に実施していくための財源の確保。 ◆ふるさとの味復活やグリーンツーリズムの研究等新たな取組みも開始し、地域内への交流人口の増加を図る。そして他地域からも注目される魅力的で個性ある別府ブランド、コミュニティ、ビジネスの創出を目指す。	◆農林水産省 中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/chusankan/jirei17/index.htm
38	152102	新潟	十日町	池谷、入山	「十日町地域おこし実行委員会」		中越復興市民会議	2004年(中越地震震災後～)	2004	「十日町地域おこし実行委員会」(集落住民、NPO、ボランティア)	商業集落は、池谷集落は現住居市、大山集落は「廃村」となっていたところに5年前画家の稲田さんが引っ越してきて1世帯と過疎が非常に進んでいる地域だ。震災後に、画家の稲田さんが助けを求めた「NPO法人JEN」が集落にスタッフを派遣した。画家の稲田さん、稲田さんの大屋の山本さん、JENから派遣された今村さん、この3人が中心となり「十日町地域おこし実行委員会」というグループが結成された。このグループは地震で壊れてしまった山里の生活をとりもどし、さらに新たな生業づくりにつなげていきたいと日々活動に打ち込む。拠点は、廃校になった小学校を市から借りて自分たちで改装して利用している。「十日町地域おこし実行委員会」と「NPO法人JEN」は、これまで8回、両集落での農作業ボランティアを2泊3日程度で受入れている。			◆中越復興市民会議 HP「にいがたNPO情報ネット」 http://www.nponiigata.jp/eve_main.php?mode=2&id=434ee858a10cd	
39	032093	岩手県	一関市 大東町	曾慶	「岩手の緑の環境を豊かに充実しよう」NPO法人どんぐり協会			平成17年～	2005	NPO法人どんぐり協会	岩手の緑の環境を豊かに充実しよう	曾慶集落は、山間部に位置し過疎化が進んでいる。この集落の森林の刈りを委されたNPOが、植物採種園を開園し、植樹祭や植物観察会、森の音楽会、ツリークライミング等多くの事業を展開しており、その参加者の多くは集落や隣接する集落の住民であり、彼らが植物や山菜のこと、またはこの集落のことなどを事業の中で語ってくれるなど、NPOの活動を陰で支え、それをきっかけに集落を見直す機会にもなっている。また、集落の人々の人脈等から派生して都市部の住民も活動に参加するようになった。		一関市大東町曾慶地区の森林資源で地域おこしを図ろうと、苗圃周辺の景観形成と交流、環境保全を目的に活動しています。自主運営する植物採種園には、ヤマブドウ、ヤマナシ、アオモリヒバやミズバショウなど多種多様な植物が自生しており、4月に行われた開園式では、花壇作りや自然散策をして楽しみました。今後も自然を舞台にした様々な活動を計画しています。また今年からは、山菜や雑穀、古代米の栽培にも取り組んでいく。	◆特定非営利活動法人いわて芸術文化技術共育研究所 HP「act lab」 http://www.act.jp.org/pin/200608/con3.html ◆国立情報学研究所学協会情報発信サービス http://www.soc.nii.ac.jp/jfes/info/autumn2006abstracts/B14.pdf
40	163228	富山県	上市町	下浅生	あそあそ自然学校		財団法人富山YMCA	1998年～	1998	あそあそ自然学校(NPO)	◆農生活空間を遊びと学びの場とする自然環境教育。 ◆子ども、ボランティア、スタッフ、かかわる人みんなが成長する「共育」の場づくり。	子どもや親子を対象とした自然環境教育、省エネなどエネルギー環境教育、食育、森林づくり、日本の農村文化の継承、地域づくりなどに関連した活動を行っている。	毎年、ボランティアやインターンシップとして、県内外から多数の大学生に協力してもらっている。	は、一九九八年の春、財団法人富山YMCAから子どもたちの里山探検の依頼を受けたことである。私にできるかなと思っただけで、できる範囲でとお受けした。浅生集落は、他の山村集落同様、過疎化が進み暗いムードとなっていたが、富山YMCAの子どもたちの元気な姿が集落をぱっと明るくしてくれた。	◆北陸中日新聞 HP http://www.hokuriku.chunichi.co.jp/toyamaoffice/npo/index129.html
41	363685	徳島県	那賀郡木沢村(平成17年合併し、那賀町に)	出羽	出羽地区むらづくり推進協議会			平成7年～	1995	出羽地区むらづくり推進協議会(住民による)	地域で過疎化が進む今、ただじっと年を取り夫婦だけで生活をしていくのではなく、都市の子供が振り向いてくれるような活動をしよう。	◆平成8年に、地域の野菜や果樹などを販売する「坂州の小屋」を住民総出で手作りして建設。平成9年には自然や農作業体験の拠点施設となる「農村レストランいづりは」も完成し、都市住民との交流が本格的にスタート。 ◆平成11年には、木工芸品のお土産やテーブル等を制作する「木工生産組合」の設立、また、伐採跡地で植林を行う「千樹の森づくり会」を結成するなど地域の資源を活用した都市住民との交流に幅を拡げ、地域内の組織との連携を図りながら年々交流人口を増加させた。	地域住民が一体となって活動により、農家の所得向上が図られただけでなく「住民みんなが協力すれば夢も実現する」という共通の意識が醸成され、「坂州の小屋」はそのシンボルとなっている。	◆農林水産省 中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/nouseikyoku/muradukuri/15mura/15-dewatiku.htm	

42	282235	兵庫県	丹波市	柏原	NPO法人たんばぐみ			平成14年～	2002	NPO法人たんばぐみ	自分たちの丹波をより良くするために・たんばぐみの3つの理念 丹波のこれからの考えよう(創造のこころ) 丹波で生きる丹波人として(共生のこころ) 丹波のことは自分たちで決めたい(自律のこころ)	◆丹波産ブランド「たんばる」の普及振興 ◆情報誌きのわ・ホームページなどによる丹波地域の情報発信 ◆丹波独自のイベントの展開 ◆各種団体などの中間支援事業(NPO法人設立支援など) ◆各種調査事業 ◆集落コミュニティ再生に関連する事業				◆NPO たんばぐみ HP http://www.tambagumi.com/top/index.htm
43	282235	兵庫県	丹波市	神楽地域の7集落	神楽の郷	①ふるさと交流居住計画②多自然居住パイロット事業	①青垣町 ②兵庫県	平成16年～	2004	7集落(榎倉、文室、稲土、惣持、小碑、大碑、大名草)	兵庫県丹波の田自然居住地としてこれまでの経験を踏まえ神楽の里全体で取り組み、個性豊かな各集落の環境資源を活かして一過性や季節単位の拘留から年間を通した選択性のある多様な持続的に成長する交流に向けて「人、情報、金」の循環システムを構築し、都市住民に第二のふるさとと環境を提供するとともに地域全体の活性化を図り、生きがいもてる地域雇用の創造を目指す。	◆広報活動等を通じて「神楽の郷」を気に入った都市住民への住宅等の斡旋、及び交流イベントなどの企画・運営等。 ◆都市住民が米づくりをはじめとした栽培から収穫までを楽しめる交流事業。 ◆村祭りや交流イベントをリンクさせ、都市住民が参加できるように配慮。 ◆多自然居住推進特区に認定されたことによる規制緩和を最大限に活用し、平成17年度から農地の荒廃対策としてNPOが水田借受による減農薬栽培の「丹波源流米」の生産や市民農園の開設等の農業経営を実施。		、「神楽の郷」への入居者用住宅等のハード面の支援は行政が行い、入居希望者へのフォローなどソフト面の支援はNPOが主体となって行うといった、行政・地域が一体となったサポート体制も充実している。特に、多自然居住支援員をNPO会員の中から任命し、空き家の斡旋、改築等のアドバイス、農地の斡旋及び営農の指導、さらには集落にある昔ながらのしきりや文化活動に関する情報提供など、新規定住希望者の不安を解消するための様々なアドバイスや相談をきめ細かく行う体制が整備されており、将来的にはこれら定住者の中から地域農業を担う者が現れる	◆NPO法人 神楽の郷 HP http://sigura.sub.jp/sigura/	
44	022101	青森県	平川市	金屋	NPO法人との連携による体験農園の実施	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成17年度～	2005	集落	高齢化による担い手不足から、集落協定を締結。遊休農地を活用し、体験農園の開設をNPO法人と連携して進めると共に、伝統ある農村景観や伝統行事についても次世代へと継承していく。					◆青森県農林水産部 HP「アップルネット」 http://www.applenet.jp/kouzou/tyokubarai/17jir/hirokawakanaya.pdf
45	204862	長野県	小谷村	伊折	手づくり福祉の集落活動事業	コモンズ支援事業	長野県	平成17年(事業開始日) H17.10.7 事業完了日 H17.12.28	2005	集落	◆高齢化の深刻化から福祉を地域全体の課題と捉え、集落住民が全員参加による農業活動を通じ、健康と生きがいを持って生活することを目指す(介護予防と集落活性化)。 ◆集落にある集落施設を、高齢者が日中集い、手作業や食事をしながらお互いが助け合いながら過ごすことができる宅老所的な施設として設備し、住民同士の助け合いによる福祉活動の拠点とする。 ◆わら細工や炭焼きなど伝統技術の利	◆集落施設の改修による宅老所的施設の開設(手作業を行い食事を摂る施設) ◆交流ハウス(オーナー研修、都会住民との交流、共同作業等に活用)を住民共同の手づくりにより設備 ◆集落活動化のための農地を復活及び特産品の開発。これらの農産品を利用した地域外の住民との収穫祭などの交流活動。 ◆わら細工や炭焼きなど伝統技術の利		◆事業の特色:福祉を地域の課題として捉え、行政まかせではない地域独自の福祉のあり方を住民で考え、展開している。	◆小谷村(長野県)HP「コモンズ支援事業」 http://www.vill.otari.nagan.jp/mura/gyosei/komozu/index.htm	
46	044458	宮城県	加美郡加美町	芋沢	中山間地域等直接支払制度による取組(炭焼き窯作り)	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成14年～	2002	集落	制度がスタートした時点で集落は農地の保全意識が高く、耕作放棄地はなかった。集落では制度を多面的利用増進のためのものと位置づけ取り組んだ。	◆水路・農道・農地法面、山林の維持管理、作業受託の推進、認定農業者の育成。 ◆H15年度には集落の名称にちなんだ自然薯栽培と集落が町から借りている山林を活用した炭焼き窯作りを試みた。焼	◆協定締結を機に協定参加者による協働活動や話し合いの機会が増えた。 ◆共同作業による自然薯栽培を実施し、集落における就労の場を確保することができた。	今後は直売所に芋沢の自然薯として出荷し、高付加価値農業の実践や消費者との交流を推進していくとともに、炭焼き窯作りを通じて伝承や体験学習、グリーン・ツーリズム等に積極的に取り組む構想である。	◆宮城県中山間地域活性化推進協議会HP http://www.net-miyagi.org/tyoku-hyousyou/imozawa.pdf	
47	465046	鹿児島県	屋久町	原	げじべえの里			平成15年～	2003	集落		◆現在、地区農産物や加工品の通信販売を行っている。これは昨年から開始した取組で、当初はほんかんたんかんを販売し、約400万円の売り上げ。 ◆売れ行きが好調だったことを受けて、今年からは品数を増やし、ヤマモ、たんかん、ほんかん、ガジュツ(紫うこん)、パッションフルーツ、たんかんジュースを取り扱い、600万円の売り上げの見込み。			◆鹿児島県HP http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/mura/activity03-1.html	
48	462039	鹿児島県	鹿屋市 串良町	柳谷	ユニークなむらづくり活動					集落	◆土着菌を活用した環境対策 ◆さつまいも栽培とオリジナル焼酎づくり ◆手打ちソバの販売 ◆土着菌足湯の設置 ◆集落各世帯への「ボーナス1万円」の支給 ◆集落の空き家を整備して芸術家に住ん	ユニークなむらづくり活動を進めており、県内外から高い評価を受けている。			◆鹿児島県HP http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/mura/activity03-1.html	
49	014699	北海道	美深町	二宇布	廃線跡に夢をのせてトロッコ列車が走る			平成8年～	1996	トロッコ王国美深の会(住民の有志)	仁宇布地区は、美幸線廃止の影響もあり、年々過疎化が進んだ。低迷する地域を何とか活性化させたいとする住民の強い意志が、平成8年6月、住民有志11人で「旧美幸線を活用する会」を結成、調査・検討を始めた。 翌9年12月には、「トロッコ王国美深の会」に発展。仁宇布の住民は、この廃線跡を将来地域の活性化に活用したいことを要望し、解体工事が進む中、プラットホームや一部区間の路線を既存の形で残してもらった。	◆ゴールデンウィークや夏休みには、家族連れで賑いをみせている。 ◆これまでの入国者は、開国初年が51日間で981人、2年目は、開国日数84日で1393人、昨年は、101日で3680人と年々増加していて、今後も期待されている。 ◆仁宇布の雄大な自然環境を体験・観察し、親子で自然の大切さを実感し、再認識する機会の提供が出来ること。 ◆過疎化が進んでいた地域に、多くの観光客が訪れることから、町内に新たな体験型観光事業が展開されたり、他の観光地も活気を保ち、特産品のPR等相乗効果を生み、地域活性化、町	◆年々増加する入国者への対応。1回1時間の運行であり、1日の対応人数は制限される。 ◆路線設備の修復作業の継続。運行合間に枕木を交換する等の作業が残されている。 ◆今年4年目を迎え、課題の解決に奮闘している。	運行時間は、9時から16時まで、第1曜日のみ運休。	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/index.htm	

50	012203	北海道	朝日町(平成17年合併し、土別市に)	南朝日	綺ら輝ら喜らら ときめきロード		平成2年	1990	南朝日イルミネーションを灯す会(住民)	近年の過疎化により地区住民の拠り所であった王子小学校は平成3年に休校、平成9年には廃校となった。 思い出のまなびやをいつまでも心に灯そうと、公民館分館長の呼び掛けに10戸の有志が集い、平成2年12月に各家庭でイルミネーションを点灯したのが始まりである。	12月に各家庭でイルミネーションを点灯。翌年には地区全体での取り組みとなり、同会が結成された。「町道愛別線沿道をイルミネーションでつながろう」と、隣接する地区に呼び掛け、「綺ら輝ら喜ららときめきロード」が誕生。12月のクリスマスシーズから1月下旬にかけて、約50基で11キロメートルに渡ってイルミネーションを点灯している。	平成8年には朝日町で開催された全道中学校スキー大会歓迎用のイルミネーション製作を依頼され、中学生と一緒に大きなイルミネーションを製作。これが地域と学校との連携を深めることとなり、地域に愛着と誇りを持つ子どもたちの育成に一役買うこととなった。以来、朝日中学校では毎年、干支をかたどったイルミネーションが	いつかこの安らぎのロードを天塩川の流れに沿った下流天塩町までの256キロメートルにまで伸ばそうと、同会は取り組みを続けている。	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/case/group/f2001/06.htm
51	032093	岩手県	一関市	舞川第5区	五区楽の里	いちのせきの里まちづくり推進事業	一関市	平成5年	1993	「一関市舞川第5区自治会」(メンバー数・38世帯)	◆平成6年から「峠の茶屋跡」「一里塚跡」の標柱、「往還道」「五区楽の里」の看板などを設置、さらに公民館脇に東屋「五区楽亭」を建設。 ◆眺めのいい場所に丸太のベンチを置き、休憩場所を設けた。	公民館脇に東屋「五区楽亭」を建設。五区楽亭では親月俳句会が開かれ、大人はお酒を片手に指折り句をひねり出し、子どもも伸び伸びとした句を詠み楽しむ。公民館では孫、子、親の3世代が集まって昔ながらの木や藁のおもちゃづくり、団子づくりなどを楽しむ。	◆年3回出される広報紙『五区楽だより』はこれらの活動に参加した住民の感想を中心に、写真を多用した紙面づくりを心がけている。顔が出ることで「隣は何をする人ぞ」の雰囲気なくなり、「自分たちの地域づくり」という意識が芽生えるため。平成9年にはいわて文集まつりで優秀賞に輝いた。 ◆同会ではあくまでも人づくりを念頭においている。「今日、明日何かが完成するものではないし、そこに住む人の魅力以上の地域の魅力は出ない」	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/case/group/f2001/08.htm
52	052035	秋田県	山内村(平成17年合併し、横手市に)	三又	魅力ある山里づくりを目指した活動		1990年～(平成2年)	1990	龍友会(住民による)	何とか昔の賑いを取り戻したい	◆地域のコミュニケーションを深め楽しい村を築こうと、住民の力を結集し、冬期間でも安心して活用できる集会所「龍友館」を建設、周辺に子どもの遊び場も造成した。これを契機に「龍友会」を結成。 ◆村祭りの復活や雪中運動会の実施、遊水の里づくり構想の提言や自然の恵みを利用した施設を手作りで整備する等、魅力ある山里づくりを目指した活動を			◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/case/group/f2000/09.htm
53	062049	山形県	酒田市	手蔵田	うるおいとやすらぎと連帯の“村づくり”		平成3年	1991	てぐらた人和夢実行委員会(住民による)	手蔵田は、県下でもトップクラスの経営規模と収穫量を誇る米作地帯と言われてきたが、社会・経済構造等の変化に伴い兼業化が進み、減反と自由化により生産意欲も沈滞。農業に対する将来展望が描けなくなり、人間的信頼関係や連帯感も薄れつつあった。 こうした中「嘆き憤っていても何も生まれない。夢を持って何か行動を起こそう」とした。	◆兼業から専業に戻った人や専業農業後継者が出てきた。 ◆後継者達は酪農家と提携して堆肥組合を作り、安全でおいしい有機米作りを目指している。 ◆地区に新しい風が吹き始め、人も元気を取り戻した。「中平田楽しい農の家」も結成され活動に広がりを見え、将来の地域農業のリード役に期待されている。	秋田県東成瀬村手倉とは、歴史文書の交換と友好交流調印を行い永い友好を約した。	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/case/group/f96/13.htm	
54	222020	静岡県	佐久間町(平成17年合併し、浜松市に)	浦川地区	地に命、子どもに明るい未来を		平成5年	1993	エコビュア佐久間(住民による)	EM菌によるボカシで、生ゴミ減量の循環型社会を創り出そうというサイクル農法に出会った。 「肥料を自家生産できるばかりではなく、これを町内に広めればゴミの減量に役立ち、同時にそれぞれの家の自家菜園で新鮮で安全でおいしい野菜を作ることができる。そればかりか、ささやかではあっても地球環境の保護に役立ち、何よりも地域の人たちに環境について考えるきっかけを与えることになるに違いない。」と考えて。	◆生ゴミは10リットル入り密閉容器(約5キロ)で1か月およそ100個を回収。 ◆毎週回収した生ゴミにボカシを加えて保管庫に並べると、1か月寝かせたボカシ和えを農園に肥料として埋め処理をする。そして空容器を洗浄して太陽に干す。経過のリース用として回収時に持参し、生ゴミ入り容器と交換する仕組み。	◆生ゴミは毎年6トン余りが回収され、良質な有機肥料としてリサイクルされている。 ◆平成6年度、40世帯から始まった生ゴミ減量運動は年毎に広がり、今や130世帯にのぼっている。自家処理が可能な希望者に必要量が供給できるよう、ボカシの生産(実費頒布)に追われている。 ◆生ゴミが自家処理できない非農家22世帯は、希望によって会員が回収。生ゴミの回収は「愛の1声運動」もあり、一人暮らしのお年寄りに一声かけ、副次的効果とはいえ地域福祉にも貢献でき、お年寄りに感謝されること	自分たちの町を誇りとし、元気を出して、土づくり、栽培、収穫、流通、交流が融合した独自のベジタブルパークを住民参加で創り出した。	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/
55	402184	福岡県	春日市	惣利地区	“愛夢惣利(あいむそうり)”を合言葉に地域の活性化		平成7年	1995	惣利好いとう会(地区住民の有志15人を中心に。)	魅力・元気がない地域に危機感。酒を飲みながら語りつつ、とにかくグループを結成し、なにか活動しようという話になり、「惣利好いとう会」が誕生した。	◆初めに企画したのは、7月の行事である地区祭りへの参加。模擬店でビール売り、花火打ち上げ。 ◆ゼロからの獅子舞で、3ヶ月猛特訓を行い、元旦に予約された40件を回る。 ◆NHKや民放TV、ラジオなどに数度出演。新聞にも、地域おこしの面白い存在としてたびたび取り上げられる。 ◆公の組織ではない任意の団体だが、区に対してはいろいろな行事を提案。今では、「どんど焼き」「もちつき大会」など、日本古来の伝統行事が毎年行われるよ	◆イベントのときは、子どもたちはもちろんのこと、日ごろふれ合うことのない大人の人たちが交流を重ねるようになり、とうとう昨年には60歳以上の方で結成された「ゲンキ会」が発足。当初自分たちが考えていた「地域活性化の起爆剤になろう」という思いが、次々実現している。青年・中年層は「惣利好いとう会」、熟年層は「ゲンキ会」、そしてその上に「老人会」、と各年齢層に分かれた組織が、お互いに連携し合い、うまく起動し始めた。	当面の目標は、まずは、2年前より始めたチンドン屋のレベルをもっと上げていくこと。そして今年よりスタートする「蛇おどり」。	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/
56	422070	長崎県	平戸市	根獅子地区	根獅子の浜を素材に、総意と工夫で創る自立のまちづくり		平成7年	1995	ヒラド・ビッグフューチャーズ(町の有志23人を中心に。)	現実を嘆き、批判し、愚痴をいっても何も生れない。自分たちが他人に頼らず自分の町を楽しく面白く創っていききたい。キャッチフレーズは“交流が生む豊かなまちづくり”。	◆「海彦山彦物語」開催。40名の福岡県朝倉郡の山彦たちを迎え、海の自然体験を通して意見交換し、今後の交流を約束した。 ◆自然農法を学習し、赤土を活かしてパレイショやタマネギ、ビワなどの特産化を目指している。 ◆ジャンボタニシ活用水稻栽培講習会 ◆「マル・ワールドロン・ジャズコンサート」このようなイベントで心を紡ぎ、心を束ねてまちづくりの火種を灯す。 ◆福祉や環境保全、ボランティア活動も取り入れ、地域密着と自己充実を求め、	活動から多様なグループが誕生。	本会は、「可燃性の人」の集合体であり、燃え盛る焚き火のような、また時には、炎を煽る風のようなグループとして、自ら輝き、地域を暖め輝かせていきたい。	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/

57	422045	長崎県	諫早市	柳谷・大野集落	魅せます 山あいの里づくり			平成7年～	1995	山あいの里育成会(住民による)	地域活性化	◆域活性化施設・やまびこ館を拠点に都市の消費者とのふれあい体験農園での交流や特産品の加工販売、高齢者や障害者の生きがい活動の支援など。 ◆平成10年末には、食堂開店の許可を取得し、農村食堂メニューの開発に取り組んだ。	◆消費者との交流活動は、会員の行動範囲を拡大し、同時に見聞を広め情報量を増やした。そのことが高齢の女性たちに働く場の確保と農外収入をもたらした。高齢者の生き甲斐となっており、地域の活性化に寄与している。 ◆加工部の紅あずまを使った芋ペーストは、市内の菓子業者に販売するまでになった。		平成9年、会には新たに若手青年が加わった。以前から若い層の参加が少なく気にはしていたが、地域振興アドバイザーの助言で再度呼びかけを行い、「いま村を起こさないと手遅れになる。若者たちが事を起こそう」と立ち上がり、会で新しい事業や活動を中心に担っていく企画部を結成	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/
58	015784	北海道	白老町	竹浦地区	地域福祉ネットワーク生かきめ細かい自主防災体制整備			平成5年～(町内会として財産を持つことが認められるための法人格を取得した年。)	1993	クラウン町内会		◆子ども若者もいない町内会。よそ者同士の集まりで、ほとんどが高齢者。歴史も浅い。ともすれば町内会運営には悪条件となりかねない地域の特徴を、いわば逆手に取って「安全なコミュニティー」づくりに取り組む。 ◆出発点は、福祉のネットワークづくりだった。老人世帯は、夫婦のどちらかにでも何か起きたらと、心細い。だから「隣近所、声掛け合って」との発想だ。それを防災につなげていこうという努力を積み重ねている。	◆日ごろの近隣関係は「寄らず、離れず」、緊急避難時には「声掛け、連れ立って」を、町内会のモットーにしている。 ◆土地が区画整理されており、家がかたまって建っているという分譲地ならではの利点を生かす。その具体化が「避難時の班別連れ立ち向こう三軒両隣編成」であり、「緊急時班別駆け付け者一覧」である。一班の〇〇さんの所には××さんと△△さんが駆け付けるという約束事を相関図にした駆け付け者一覧図は、見事なまでに実践的だ。		◆川と国道と鉄道に囲まれた新興の造成地である。橋が落ち、国道が寸断されれば孤立する。自前の重機が欲しい。去年の訓練ではボランティアが必需品であることも分かった。車いすも、自前のものがあれば要援者の介助に便利。近隣の町内会との連携も深めたい。 ◆町内会会員の年齢構成を考えると「お先真っ暗」といった声もある。こればかりは町内会役員がいくら頑張っても、どうにもなりそうもない。クラウン町内会のような自主防災組織を、とにかく新年度には10町内会ぐらいで結成	◆ふるさとづくりネットワークHP http://www.ashita.or.jp/
59	053490	秋田県	八森町(平成18年合併し、八峰町に)	本館	ありのままの自然・歴史・文化を活かしたグリーン・ツーリズムの推進によって魅力あるむらづくりを实践			平成8年～	1996	八森町本館自治会	地区が持っている長所の把握、それを活かしたグリーンツーリズムを基本とした取り組みの展開。	◆グリーン・ツーリズム活動「集まるごと農村博物館」構想の実現(自然環境、景観、農村生活の歴史と文化など、地区が守り維持してきたものをそのまま都市生活者に提供) ◆高齢者や女性の力を活かすイベントの設定「本館そば」のそば打ち体験 ◆次世代への農業体験伝承 ◆猿追い活動ボランティアとの交流 ◆本館城落城400年供養祭	◆集落の活性化と維持・向上:グリーン・ツーリズムの実践を通じて、自治会内各グループの役割が明確化され、連携をより一層深めている。 ◆周りの人々を巻き込んだグリーン・ツーリズム、町の援助、山林振興会や水利組合を通じた他集落との協力をはじめとし、町のむらおこしの団体との連携を深めながら地産地消に関するイベントなどの大きな取り組みに繋がっていくなど、小さなむらを核とした幅広いグリーン・ツーリズムのネットワークを形成。 ◆草の根国際交流「猿追い」ボランティアを通じて、自治会と国際ボランティア集団との交流が始まった。 ◆他地域への波及性:自治会活動がそのままグリーン・ツーリズム活動の推進母体へと発展した貴重な成功例であり、新聞等にも取り上げられるな	◆体験などのイベントメニューには、山への植栽、魚加工、地域の伝統食づくりなどを企画している。 ◆近郊の日本海では季節に応じてハマハク、黒鯛、ほっけ、いかなどの釣りが楽しめるため、町・漁協との連携で釣りガイド風の取り組みについて協議している。	◆農林水産省HP http://www.jri.maff.go.jp/jirei/doc/2004/506/002.html	
60	392014	高知県	高知市	五台山地区	“スーパー過疎地”五台山地区への移動販売車誘致	地域の元気応援団	県	平成18年～	2006	地域の元気応援団(高知チーム)(市職員と住民による)	ふれあいセンター長や、振興会の会長、また民生児童委員連絡協議会の会長や民生委員の方から聞き取りを行った結果、五台山地区は高知市内でありながら近くに量販店がなく、自動車の運転ができない高齢者は大変不便な思いをしていることが判明。その解決を目指す。	県内で移動販売に取り組んでいるサンプルラザに現状を説明し、移動販売車の乗り入れを申し出る。了承を得、地域で説明会を開き、好感を得たことから、販売場所の選定や地主との交渉などを経て、毎週木曜日午後五台山地区内5ヶ所での移動販売が実現。	利用者は高齢者の方が中心だったが、なかには幼児を連れ、自動車に乗らない若いお母さんの姿も見受けられた。	◆地域では、この移動販売車の乗り入れが長く続くようこと、今後も利用の声をかけていくこと。 ◆この地域の特に移動手段を持たない高齢者にとって、この移動販売が週1回の貴重な買い物機会であるとともに、ひきこもりがちな高齢者の外出機会になればと期待される。	◆サンブラザ…現在6台のバスで県内23市町村を回り、各地域の買い物の不便を解消するとともに、過疎地では高齢者の見守りの役目も果たしている。商売としてより地域貢献の意味合いが強い事業である。 ◆商品は150品目で、生鮮品は当日の朝に仕入れるなど消費期限への配慮を行っている。地域のニーズに合わせた商品の搭載(山間部には魚、高齢が多い場合お餅は載せないなど)のほか、電話・	◆高知県HP http://www.pref.kochi.jp/~chiiki/oendan/katsudo/18th/0600511.html
61	093432	栃木県	茂木町	元古沢	ゆずの里かおり村「みんなでヤッペーゆずの里」			昭和61年～	1986	八溝ゆず生産組合(集落の農家13戸全戸からなる)	県境にある小さな山村集落で、過疎の一途を辿っている状況を何とかしたい。	◆荒廃した段々畑を再開墾し、300本のゆずの苗木を全員で植樹。納屋を改築し、公民館を建設(住民の資財)。昭和63年にゆずが実ったのを契機に「ゆず祭り」を開催、マスコミに注目してもらうため「大ぶら吹き大会」を企画し、大成功を収めた。 ◆平成5年にはゆずのオーナー制度を開始し、現在では1000人を超え、1万本のユズが植えられ、年間2万人の観光客が集まるようになった。 ◆「ゆずの里かおり村」を開設し、都市住民を「かおり村の村民」とするなど継続的	◆代表の石川氏は、そのアイデアと行動力で地域住民一人一人に自信を植え付け、活力を失った集落を元気ある集落へと変貌させた。 ◆また、栃木県村づくりの先駆者として県内の村づくりの指導も数多く行い、こうした活動が評価され、国土交通省選定の観光カリスマ百選にも選定された。	今後は、近隣地区を巻き込んだ「フルーツ村構想」を掲げ、年間を通して果物収穫体験等が楽しめる地域づくりに取り組んでいる。	◆関東経済産業局「コミュニティビジネス事例集2006」 http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/community/data/jireishuu2006.pdf	
62	336637	岡山県	久米郡 久米南町	北庄西	中山間地域等直接支払制度を利用した取組(集落営農を基盤とした取組み)	中山間地域等直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村	平成18年～	2006	集落	集落内における基幹的農作業は、従来、個々の農家でやってきたが、高齢化が進展する中で将来的に基幹的農作業も困難となる農業者が予想された。このため、前期対策に取り組んだ結果集落内の話し合いが進み、集落営農に取り組むこととなった。	集落マスタープランの概要 ◆集落の将来像 集落営農に取り組む、低コストで安定的な営農を目指す。もち米、黒大豆、ゆず等地元農産物の加工品の商品化により収益の向上を図る。 非農家等及び他集落との連携による道水路管理等の実施や、獣害対策として防護柵を設置。		◆平成17年度には、集落営農化への話し合いが進み平成18年度には組織化確立を行い、平成18～19年度において、交付金の積立等を活用して共同機械の購入を予定している。さらに、法人化に向けた研修を随時行いながら、平成20年4月を目途に法人設立を予定している。 ◆効率的な道水路管理と効果的な獣害対策を実施するため、非農家・非対象農家との連携や他集落との連携も進めていくこととしている。	◆中四国農政局HP http://www.chushu.maff.go.jp/chusankan/jirei17/2-04.htm	

63	182044	福井県	小浜市	竹長	集落全戸参加による食のまちづくりをめざして	中山間地域等直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村	平成12年	2000	集落	住民のほとんどが準主業農家で、水田の多くが溜田で、時折水不足に悩まされる等農業を持続する上で厳しい条件下にある。住民の主体性を尊重し、地域の資源と潜在的活力を引き出せる永続的な住民参加の組織作りを目指す。	◆平成12年に設立された「竹長農地保全組合」と既存の野菜生産組織「西農クラブ」が一体となり、耕作不利益地域の保全、稲作、生産調整等の農業施策に取り組む。 ◆妻跡地を活用して集落総出で大豆の作付けを行う。 ◆収穫した大豆を集落の主婦と地元豆腐業が加工し、収穫祭で披露する。				◆福井県HP http://info.pref.fukui.jp/nourin/chokusetu-shiharai/obama.pdf
64	182010	福井県	美山町(平成18年合併し、福井市に)	河内	800年の伝統を守る河内郷	中山間地域等直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村	昭和51年～	1976	集落	集落の主産業は農林業であり、過疎と高齢化が進んでいる。今後耕作放棄地が増える可能性があり、直接支払制度を利用して防止していきたい。	◆昭和51年に集落内で「河内赤かぶら生産組合」を設立し、赤かぶらの焼畑栽培の保存や転作田での栽培等生産拡大に努めている。 ◆生産組合の女性グループが赤かぶらを酢漬けに加工し、町内外へ販売。 ◆毎年5月5日には県無形文化財の「じじぐれ祭」が行われ、地域内外から多数の人が訪れ、集落の活性化を図ると共に伝統ある祭を継承している。 ◆インシンの被害対処のため共有で電気柵を購入、設置。 ◆農地に隣接する周辺林地の下草刈りを実施し、国土の保全及び農作業の効率化と美観づくりに努めている。		中山間地域等直接支払制度は、交付額も少なく、期間も5年間と定められ、また事務的にも煩雑なので、もう少しストレートな支払と交付額の増額及び期間の延長を望む。	◆福井県HP http://info.pref.fukui.jp/nourin/chokusetu-shiharai/miyama.pdf	
65	184233	福井県	越前町	梨子ヶ平	全国初！越前水仙オーナー制度	中山間地域直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村	平成12年	2000	集落	近年高齢化・過疎化が進み、急傾斜地ということもあり田は守れず、ほとんど水仙に転作されてしまった。また、耕作放棄地の増加、水仙の品質の低下が懸念されている。そのため、オーナー制度を活用して棚田を保全し先祖伝来の千枚田を守っていきたい。	◆平成11年に全国棚田百選に選ばれた千枚田に、越前水仙を栽培。また、福井梅も栽培される。 ◆平成12年から水仙の棚田オーナー制度を実施。現在60人ほどのオーナーが年に2回の草刈り及び収穫作業や地元農業者との交流を行う。	平成13年からは福井梅のオーナーも募集し、集落一体となって地域の活性化に取り組んでいく。	◆福井県HP http://info.pref.fukui.jp/nourin/chokusetu-shiharai/echizen.pdf		
66	043028	宮城県	刈田郡 七ヶ宿町	湯原	担い手の育成と農地集積の取組で集落の活性化	中山間地域直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村	平成17年度～	2005	集落	高齢化が進み、後を継ぐ見込みのない兼業農家が多い。農業生産停滞と耕作放棄地の増加の対策をたてる。	積極的に農地利用集積を進め、山間高冷地の立地条件を活かし、そば、えごま、山菜等を栽培し経営の安定を図る。	高付加価値を高めるための加工技術を身につけ、販売を促進し収益性を高める。認定農業者の育成：現在3人→4人へ。	◆宮城県HP http://www.pref.miyagi.jp/muradukuri/h_chusan/01/jireisyuu/h17/jirei-yunohara(H17).pdf		
67	041009	宮城県	仙台市	難波	集落の自立を目指して	中山間地域直接支払制度	農林水産省一都道府県一市町村	平成12年度	2000年	集落	周辺環境の変貌や新住民の転入等により地域の自然や歴史、伝統・文化に対する意識が薄らぎ、耕作放棄地も発生する等、集落のまとまりに危機意識を感じて。	◆平成12年度から共同取組活動の一環として景観作物のコスモスや蕎麦の栽培を行う。 ◆平成15年度に集落全戸参加による模擬結婚式「お立ち酒」を開催。 ◆平成16年度からは交付金で蕎麦の収穫機を購入し蕎麦の集団転作を行い集落営農を目標進める。 ◆交付金で中山間地域農林業体験留学事業を難波集落が主催で実施し、都市住	◆「お立ち酒」では集落の宝である民謡「お立ち酒」と「難波神楽」の保存と伝承に大きく貢献し、希薄になりがちであった集落の結束が図られた。 ◆難波神楽では子ども達が練習を積み重ねて伝承してきたが、大人神楽でも新しい踊り手ができており集落の活性化が図られている。	交付金で購入した蕎麦収穫機を有効活用して資金を造成し、将来的には水稲用汎用型コンバインを導入し、交付金がなくとも自立可能な集落営農を確立することを目標としている。	◆宮城県中山間地域活性化推進協議会HP 「みやぎふれあいネット」 http://www.net-miyagi.org/tyoku-hyousyou/naniwa.pdf	
68	312037	鳥取県	倉吉市	福原	「老人と若者のきずなをつちかうみどりむら」						平成5年から全戸参加の「福原やろう会」(住民全戸参加)を組織し、高齢者の就労の場をつくる。	◆炭は火力が強く、バーベキューや茶の湯の燃料として重宝がられるほか、量の下などに敷く乾燥剤としても利用される。 ◆竹酢液も木酢液同様、病虫害の防除や脱臭、入浴剤として利用され、「タールが少ない分、肌ざわりがやわ		◆鳥取県倉吉市関金町関金温泉観光案内所HP 「せきがね観光ガイド」 http://www.sekigane.net/guide/list/facilities/su-miyaki/index.html		
69	155853	新潟県	北山町	府屋	ゴミ集積小屋設置事業	魅力ある集落づくり事業	北山町	平成17年度～	2005	学校町魅力ある集落づくり委員会(住民による)	集落環境美化のため、ゴミ集積小屋を新たに設置する。			◆新潟県北山町HP http://www.town.sanpoku-niigata.jp/syuuraku/syurakudukuri/H17/syurakudukuri06-1.html		
70	155853	新潟県	北山町	山熊田	残雪のブナ林を歩く会	魅力ある集落づくり事業	北山町			山熊田ドリーム(住民による)	山北町にもこんなに素晴らしい場所があることを皆さんに紹介したく始めた。	残雪多く残るブナ林を町内外から参加者を募集し、開催する交流イベント	毎年回を重ね多くの人でにぎわう。多くの方はレピータとして訪れ、自然を会して山熊田の魅力を紹介した取り組みが、地域の人の魅力につながり、多くの「山熊田ファン」を生んでいる。	◆新潟県北山町HP http://www.town.sanpoku-niigata.jp/syuuraku/syurakudukuri/H16/syuuraku05-A.html		
71	155853	新潟県	北山町	碁石	碁石集落生きがいデイホーム事業	魅力ある集落づくり事業	北山町	平成15年度～	2003	碁石361委員会(住民による)	高齢者の生きがい対策事業	伝統行事の「団子ならし」やお手玉遊びなどを、集落の子どもたちと楽しんでおこなったり、健康相談なども行なった。		◆新潟県北山町HP http://www.town.sanpoku-niigata.jp/syuuraku/syurakudukuri/H15/syuuraku04-2.html		
72	202177	長野県	望月町(平成17年合併し、佐久市に)	東春	安全・安心な農作物づくり、すたれていく食文化の味噌づくり、新たな品目の研究	個性と魅力あふれる集落づくり(おらのむらづくり事業)	長野県	平成16年	2004	東春耕作組合(東春睦会)	地元産大豆を使った味噌の生産加工(先進地研修、試作加工、施設整備等)	地元産大豆と米を使いメンバーでの自家用味噌づくりが始まった。	遊休地に大豆を作付け、将来は消費者の味噌作り体験や販売も進めたい。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/tiiki/1-mochizuki.htm		
73	202177	長野県	旧浅科村(平成17年合併し、佐久市に)	矢島	いきいき長寿手づくり凍み豆腐健康むら再生計画	個性と魅力あふれる集落づくり(おらのむらづくり事業)	長野県	平成16年	2004	矢島地区むらづくり検討委員会	地域再生計画者の認定を受けた「いきいき長寿手づくり凍み豆腐健康むら再生計画」をメインに農村の伝統生活と食の連帯の再構築	地産地消を基本として地元産大豆を原料に、地域に根ざした豆腐や味噌づくりが始まった。	遊休農地対策として大豆を作付け、安全・安心な地場農産物加工を進めたい。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/tiiki/2-asashina.htm		
74	204480	長野県	生坂村下	下生坂	村一番活気がある集落を目指す	個性と魅力あふれる集落づくり(おらのむらづくり事業)	長野県	平成16年	2004	集落	村一番活気がある集落を目指す	◆1haの遊休荒廃農地が整備され、水田作業受託組織の育成等(サフォークの放牧による遊休農地解消への取り組み)を実施し、先進地視察研修等	水田作業受託組織の育成へ向けて、引き続き検討の場を設けて進める。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/tiiki/1-2-ikusaka.htm		
75	202029	長野県	旧奈川村(平成17年に合併し、松本市に)	古宿	ながわの気候を活かした観光農園事業	個性と魅力あふれる集落づくり(おらのむらづくり事業)	長野県	平成16年	2004	古宿農産物生産者組合	ながわの気候を活かした観光農園事業(つみ取り体験型農園の整備)	ブルーベリーの植栽、先進地視察研修等	今後、周辺環境の整備も進め、観光農園へ繋がる活動を継続していきたい。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/tiiki/1-4-nagawa.htm		

76	152242	新潟県	佐渡市	岩首	「集落は集落の人たちが守り次世代の子ども達に残してやらなくてはならない」を合言葉に	①地域活性化事業(チャレンジ事業)(両津市)、②中山間地域直接支払制度	①両津市(現佐渡市)②農林水産省→都道府県→市町村	①平成10年②平成12年	2000	岩首集落村づくり委員会	集落の農地等の荒廃に対する危機感の高まりから、どうしたら集落を維持できるか模索。	◆営農体制の確立:既存の「岩首農用機械利用組合」を集落農業の核とし、育苗、田植え、稲刈り、乾燥調整の各作業を共同作業で実施。高齢化・兼業化に対応した営農体制を確立するとともに、若手オペレーター5名を確保し、地域営農システムの一翼を担う組織として、より一層の充実を図っている。今後は更に法人化を目指す。 ◆新規作物導入による耕地の有効活用	◆平成10年に旧両津市の地域活性化事業を活用して、集落内にある「養老の滝」を整備。 集落住民による遊歩道作りや山野草育成等を行って整備し、事業終了後も春と秋の2回、集落住民のボランティア活動により、遊歩道の修繕や清掃などを行い、集落のいこいの場として、また集落の観光拠点として、大切に維持管理されている。	平成10年から両津市(現佐渡市)の地域活性化事業(チャレンジ事業)を活用し、「岩首開発委員会」を立ち上げた。開発委員会が、地域資源として集落内にある「養老の滝」の環境整備等に取り組んだことにより、集落が活性化するとともに、まとまりが生まれた。その後、大きな契機となったのは平成12年度からの中山間地域等直接支払制度であった。まず、平成12年4月に「岩首村づくり委員会」を	◆農林水産省 北陸農政局HP http://www.hokuriku.maf.go.jp/news/plan/mura/h16niigata.html
77	032131	岩手県	二戸市	門崎	若い世代が魅力を感じられる古里にしたい「浄門の里」のむらづくり			平成8年～	1996	門崎むらづくり推進協議会	若い世代が、集落からいなくなっていく。都市部へ就職し、盆や正月、農繁期にも帰ってこない。過疎高齢化が進んでいくことに危機感を抱き、何とかして集落に活気を取り戻したいとの地域民の願いが設立のきっかけとなりました。	◆下水道の整備 ◆都市との交流会(野菜や果物の収穫、郷土料理の提供、懇談会) ◆門崎産の農産物を交流のある都市部で直売 ◆集落の入り口に村の案内板を設置。 ◆風流なあずまやや水車小屋、浄門庵を住民の手で作る。	活気あふれる地域づくり活動が実を結び、若い世代のリターンも増えている。	「村おこし、地域づくりは、一年ストップしたらゼロからやり直し。だから継続することが大切なんです」	◆岩手県HP http://www.pref.iwate.jp/hp020102/johmon/index.html
78	052035	秋田県	横手市	中村	共同と助け合いの精神で村づくり			昭和45年～	1970	集落		◆花卉栽培等の導入による収益性の高い複合経営確立 ◆ブラザー制度(新規栽培者にベテラン農家が栽培技術を公開・指導)による技術向上と後継者育成 ◆女性・高齢者が花卉やスイカの栽培を担う			◆秋田県HP http://www.pref.akita.jp/noseika/H18/1024tenno uhaiup/nakamuragaiyou.pdf
79	064025	山形県	白鷹町	深山	集落みんなで取り組むグリーン・ツーリズム		白鷹町	平成6年～	1994	いきいき深山郷づくり推進協議会	平成8年度策定した「深山地区集落営農推進計画」を実践するため、全戸参加の「いきいき深山郷づくり推進協議会」を設立し、住み良い環境づくり、都市住民等との交流による集落の活性化に取り組む。	◆農家民宿「いきいき深山郷のどか村」を集落で経営。 ◆農産物直売所の運営 ◆伝統工芸の継承、体験事業の実施。 ◆フラワーロード、地区の石仏等の景観整備。 ◆荒廃ぶどう園の観光わらび園造成。		平成6年「深山の農業を語る会」開催 平成7年町の集落営農モデル地区指定 平成8年グリーン・ツーリズムモデル地区の指定 平成9年「深山地区集落営農推進計画」策定	◆やまがたアグリネットHP http://agrin.jp/cgi/guest/page.cgi?id=4305
80	155853	新潟県	山北町	熊田	生業を受け継ぎ集落に輝きを生み出す		山北町、商工会(助成金と商工会からの幹旋による借り入れ金)	平成12年(組合設立)～(活動自体は昭和60年～)	2000	さんぼく生業の里企業組合		◆民家を改装してつくった工房で集落の4人の女性が地域で代々受け継がれてきた「しな織り」をつくっている。 ◆その布地を帯、バッグ、帽子、名刺入れなどさまざまな製品にして販売。 ◆予約をしておけばこのしな織りが体験できるほか、木の灰汁に浸して作る餅「アケ笹巻き」づくり、さらに山熊田集落の旬の食材でつくる郷土料理も味わうことができる。	◆とくに宣伝もしていないがピーク時の秋には1か月に1000人を超える。集落の人口よりも多い1日100人もがやってくる日もある。今では2100万円の売り上げがある。 ◆生業の里が核になって、この集落自体にも生業が戻ってきた。たとえば、しな織りの糸は集落のほとんどの家がここに卸すようになり、集落全体の生産性も上がっている。	今後の生業の里の目標は、しな織りが伝統的工芸品の指定を受けたことによる名前の広がりから、新たな消費者との直接のつながりが増やすことだ。そうしなければつくる側でも人手が増やせるし、そのなかから後継者も生まれてくると考える。集落外からもここで暮らす人も出てくるかもしれない。	◆社団法人農協協会HP「農業協同組合新聞」 http://www.jacom.or.jp/tokuyou/toku182/toku182s06011204.html
81	313645	鳥取県	三朝町	福田	福田振興協議会			平成12年～	2000	福田振興協議会	20余年に及ぶダム建設計画に伴い、集落の将来像が描けないまま不安な状況を余儀なくされてきました。平成12年に計画中止となり、これを契機に集落の将来像を描いた振興計画を策定し、集落の再生に向けて取り組んでいます。	◆交流センター・多目的広場の整備。 ◆農業基盤の整備:集落営農に取り組むため、共同農業機械を導入し、農業基盤の強化を図る。 ◆交流農園・環境美化事業:住民が共同で作業する交流農園の開設により、住民同士の交流を深めている。また、季節の花、花木を集落内に植栽し、美しい環境づくりに努めている。 ◆研修事業:村づくりの先進地を視察したり、農産物の栽培・加工について研修し、理解を深めている。	◆集落の振興計画の話し合いを進めていく中で、集落のコミュニティが復活し、住民の総意による地域づくりに向けた雰囲気が出てきた。 ◆豆腐、味噌の共同作業が始まり、原料となる大豆を住民が共同栽培するなど、集落内に活気が出てきた。	これから本格的にほ場整備や共同機械の導入等に着手し、集落の農業基盤の強化を図る。	◆鳥取県三朝町HP http://www.town.misasa.tottori.jp/site/page/allindex/nouson/mura/fukuda/fukudasinnkou/
82	313645	鳥取県	三朝町	下谷	下谷振興協議会						ダム建設計画が持ち上がって以降、将来の生活設計が立たず不便な生活を強いられました。長年のダム建設計画が中止となり、これを機に住民が自ら集落のあるべき姿を実現するための村づくりを進めています。	①集落内環境の整備 交流センター・多目的広場など、集落内環境を整備。 ②農業基盤の整備 共同作業所や農業機械(精米機等)を導入し、集落の農業基盤を整備します。 ③集落のバリアフリー化 公共スペースに手摺り・スロープを設置し、誰もが活動しやすい環境づくりを進めます。 ④交流・研修事業 夏まつり等の交流イベントを開催し、集落内の親睦を深めます。また、視察研修、農産物加工研修を行い、村づくりの	集落の活性化に向けた話し合いを重ねるうち、新しい提案や活発な議論が交わされるようになりました。 農産物加工に積極的に取り組み、自家消費だけでなく販売に向けた研究も始まり、集落に活気が生まれました。	集落の公共的な場所のバリアフリー化や、ほ場整備を始めとした農業基盤の整備に取り組む。	◆鳥取県三朝町HP http://www.town.misasa.tottori.jp/site/page/allindex/nouson/mura/shimodani/shimodanisinnkou/

83	313645	鳥取県	三朝町	小河内	でべその会					でべその会	小河内集落は平成4年から7年にベビーブームが発生。また高校生以下の子どもの多いことから、集落では子どもたちの将来を考え、郷土に愛着を持つ子どもに育てようと、子どもを中心とした村づくりに取り組む。	◆源流「豆腐」の製造販売：転作で生産された大豆を原料として、毎週日曜日に約120丁の豆腐を製造し、町内5地区、約70人の消費者に予約販売。 ◆小河内「ほおずき市と源流とうふ祭り」(H12～)8月中旬(盆前)に地元産のほおずき、源流豆腐、野菜等を販売。ほおずきは町内のイベントでも販売するなど集落の特産化を目指す。また、盆には「馬場の滝まつり」を開催し、帰省客と一緒に交流。 ◆がき大将の館の開放：月1回、旬の食材を持ち寄った食事会「食ing」の開催を始め、子どもの遊び場、高齢者の健康づくりなど様々な活動に利用。 ◆農業機械の共同利用：小河内ファームで集落内の農作業を受託するなど集落	世代を越えたがき大将の館での交流活動を始め、各種行事への参加により、呼びかければ積極的に参加・協力する雰囲気が出てきた。特に子どもと大人が触れ合う機会が増え、子どもが地域の行事に自主的に参加するようになった。	豆腐づくり、ほおずき栽培等に参加する人が固定化しているため、参加者を拡大するための企画が必要。	◆鳥取県三朝町HP http://www.town.misasa.tottori.jp/site/page/allindex/nouson/mura/ogouchi2/debesonokai/
84	202134	長野県	飯山市	福島	福島棚田保存会「棚田の里 三部」	「新みずほの国づくり構想」(平成10年瑞穂地区)②「ふるさと棚田支援事業」(平成12年 長野県)③「県営ふるさと水と土とふれあい事業」(平成13年度長野県)	瑞穂の郷づくり委員会(地区)	平成10年～	1998	福島棚田保存会「棚田の里 三部」	荒廃した棚田を復活させて地域についての活気を取り戻したい。	◆「田植え、稲刈り体験」(平成11年～) ◆地元小学校等の農業体験学習	◆平成11年には荒廃した棚田90aのうち45aを復活させ、同年農林水産大臣より「日本棚田百選」に認定。 ◆グリーンツーリズムや観光等への取組から、集落でのイベントの参加者は年々増えている。◆また、国際交流員として外国人の農業体験も受け入れ、住民も諸外国の若者と国際交流ができるよい機会となっている。		◆関東農政局HP http://www.kanto.maff.go.jp/release/murazukuri/H17nagano.pdf
85	172022	石川県	中島町(平成16年合併し、七尾市に)	藤瀬	～ふるさと心の心をとどけます森と霊水～森からの恵みの霊水を活かしたむらづくり	中山間地域農村活性化総合整備事業	農林水産省→都道府県	平成10年～	1998	ふるさとづくり推進委員会(住民による)	この集落の山間奥地に、個人的に創出した水が、産主の水(霊水)として口コミで広がるに連れ、霊水汲みの往来が多くなり、農業用水、ゴミの放置、農作業の支障、環境整備等々の苦情も多くなり、集落内の感情論が表面化してきた。一方、この霊水を活かした地域づくりの懇談会では、トイレ等の環境整備の要望が出され、区としての対処が急務となった。	◆道路の整備、農村公園化、霊水の権利、管理棟の設置、公園管理の運営等々の計画案を区の総会に提出。 ◆平成10年度から「ふるさと農園」事業を開始。基本的な農地の活用としては、米、五穀、野菜園、果樹園、花卉園、山野草農地等に区分し、更に、米生産農地には、学童農地、オーナー制農地とを設定し、それぞれに生産の増産を図っている。 ◆里山維持のため、平成12年度から森林整備も始めた。 ◆霊水を汲みに訪れる人々を対象に、管理棟において特産物の販売について検討を行い、農産物のほかに、しいたけの	近年の自然食及び健康食品志向のブームを反映して、霊水を汲みに訪れる人々は年々多くなり、公園整備後は駐車場は有料としたが、訪れる人々は減少しない状況で、むしろ、入り込み客は一定化している状況である。	藤瀬区には、以前に「無名塾」(俳優 仲代 達矢 氏 主宰)の宿舎として使われた集会所が整備されており、この施設と霊水公園を結び、都会との交流の窓口として東京郷友会を通じてイベント等を行い、高齢者の生きがいと若者が楽しめる地域として、また、地域の核となるよう活性化を図っていきたい。	◆林野庁HP http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyokuai/sanson/08-3-9.html
86	282014	兵庫県	安富町(平成18年合併し、姫路市に)	末広	な～んもない！な～んもない！そんな田舎から いやしの里 すえひろ			昭和56年	1981	集落	地域の活力と地域づくりの哲学が確立していない限り、中心部からほど遠い過疎地の集落の一つとして埋没してしまうでしょう。そこで私たちの集落未広では、昭和56年から「新しい地域づくり・地域の活性化・地域づくりの理想」を求めて「人の群れ」をつくり【出る杭を育て】な	◆山林整備事業：循環の森づくり・里山の再生 ◆共同墓地維持管理事業：車椅子で墓参りができる集落の共同墓地公園づくり ◆川東地区総合整備事業：ふるさと林道・営と雑魚と人間が共生できるふるさとの川づくり	◆平成10年に総務省などが主催する『全国ふるさとづくり賞』を受賞。 ◆末広生産森林組合は平成14年度全国育樹祭において、皇太子さま・雅子さまの前で「ふれあいの森づくり」という全国表彰の栄に浴した。		◆いやしの里 すえひろ通信 HP http://www.suehiro.cc/index/old-site/old-index.htm
87	203246	長野県	立科町	集落姥	都市住民との交流による集落の活性化	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	集落の活性化	◆担い手への農作業の委託(担い手の育成) ◆保健休養機能を活かした都市住民との交流(多面的機能の発揮) (ブルーベリー、りんご園等の活用により「夢科農ん喜村」と連携し都会の学生の体験学習の受入をし交流を図っている。)		今後は、遊休農地の復旧等に積極的に取り組み、復旧地を利用した市民農園開設や、現在あるホテル水路のホタル増殖など、当地域の自然豊かな農村環境の維持・保全に努め、集落の活性化を図る。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/sansin/17jirei-uba.htm
88	203882	長野県	宮田村	割集落・南割集落	一村一農場での全村の取り組み	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	中山間の特認地域で認定され、急傾斜地であり、水田の畦畔面積が大きく、湿地田となっていて個人での作付けや転作には多大な労力が必要としている。そ	◆認定農業者の育成(担い手の育成) ◆機械・農作業の共同化(機械・農作業の共同化) ◆特産品やまぶどうワイン		今後は経営安定の要件を満たす、経営体の育成や小規模兼業農家の取組を重点的に検討。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/sansin/17jirei-miyada.htm
89	204862	長野県	小谷村	坪山	中山間の地域資源の全てを有効利用	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落		◆転出者の農用地を借り上げて、ミニ基盤整備(村有重機使用)により、約1.5haの土地が効率的農地として変換できたと同時に、協定参加者で営農集団を立ち上げ、機械・農作業の共同化とハウスで育苗を行い、育苗後のハウス利用によるフリーダムきゅうりを契約栽培している。 ◆転作田を利用したソバ栽培や新規作物のキウイモの契約栽培を実施。	◆遊休農地が解消されたとともに共同作業や高齢者向けの栽培品目等により集落、グループ内はもとより、他集落との交流もでき、集落全体に活力が出てきた。 ◆個人配分を行わず、すべての出役に対して労働報酬という形にしたことに集落全員がやりがいを感じている。		◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/sansin/17jirei-tuboyama2.htm
90	205621	長野県	木島平村	小松原	村独自のブランドとして特別栽培米の栽培を目指す	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落		木島平村では、水稲をはじめ各農作物に独自の「減農薬・減化学肥料栽培の基準」を定め、村をあげて「有機の里」づくりを進めている。この栽培基準に沿った栽培が村内の農家で広がっている。			◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/sansin/17jirei-komatubara.htm
91	042056	宮城県	気仙沼市	羽田	遊休農地を活用した農業体験への取り組み	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落		気仙沼市が行っている市民農業大学(平成10年～)と共同で、遊休農地対策の一環として親子のふれあいを目的「親子で農業体験」を実施。	市民との交流により活性化につながった。	市では苗代、肥料代を、集落では農地管理をはじめとした農業作業の手伝いを市と管理契約を締結して行っている。	◆宮城県HP http://www.pref.miyagi.jp/muradukuri/h_chusan/01/jireisyuu/h14/kesennuma-hata.pdf
92	282103	兵庫県	加古川市	平岡	寺田池を語る会	ひょうご美しいむらづくり	兵庫県			寺田池を語る会(住民による)	寺田池が住民にとって愛着のある場所となるよう、PR活動や環境保全活動を行うとともに、水と緑のまちづくりへの参加を呼びかける機会づくりを目的とした活動を行う。	良好な自然環境の共有意識を高めるクリーンキャンペーンの実施、自然環境にしたしみつつ世代間交流となるネイチャーゲーム大会およびふれあい祭などのイベントの開催や新聞発行によるPR		◆兵庫県「ひょうご美しいむらづくり基本指針」 http://web.pref.hyogo.jp/contents/000018264.pdf	
93	283657	兵庫県	加美町(2005年合併し、多可町に)	箸荷	「ここは一人にもないんです」	ひょうご美しいむらづくり	兵庫県			箸荷むらづくり委員会		◆日常の何気ない農村集落景観を地域の大変な資源として次代に引き継いでいくため、住民の間で景観むらづくり協定を締結し、家の建て方や色彩などを地域でルール化している(2001年に県内代1郷の知事認定)。 ◆長らく途絶えていた素人むら芝居を1993年に消防団によって復活し、「箸消興行」の看板を掲げて時代人情劇を中心	◆公会堂の改革にあわせて芝居用舞台が設けられ、地域でもむら芝居保存会が結成されるなど、今では地域をあげた取り組みに発展している。 ◆2002年10月には、「第1回全国むら芝居サミット」を開催し、「全国むら芝居ネットワーク」の事務局もつとめるなど、小さな事をつなげる大きな役割を果たしている。		◆兵庫県「ひょうご美しいむらづくり基本指針」 http://web.pref.hyogo.jp/contents/000018264.pdf

94	282235	兵庫県	春日町(2004年合併し、丹波市に)	中山	里山ウォークディ	ひょうご美しいむらづくり	兵庫県		中山区振興事業実行委員会		◆里山の魅力を掘り起こし、集落の魅力を凝縮した小冊子「中山の歩き方」を作成し、地域の魅力を発信している。 ◆区内を自由に散策できる「里山ウォークディ」を設け、チラシやインターネットで広報し、訪れた観光客に地域通貨を配布し、これを利用した住民との交流を図って		事業のノウハウを普遍化するため、地域のNPOと協力し事業を進めている。	◆兵庫県「ひょうご美しいむらづくり基本指針」 http://web.pref.hyogo.jp/contents/000018264.pdf	
95	152056	新潟県	柏崎市	門出・田代	集落を越えた「集落間協定」の取り組み	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村		集落	旧制度から、隣接する2集落で協定を締結していた当集落協定では、新制度の開始に当たり、集落・市・JA・普及指導センターで今後の方向について話し合った結果、旧制度では農道・水路の補修・改良等生産基盤の整備を中心に行ってきたが、新制度ではそれらに加え機械の共同利用・共同作業の充実といった営農体制の整備に重点を置くこととなった。	◆継続的な営農体制の整備…集落内にあるライスセンターを中心に、生産組織活動の充実・拡大を検討。その中で、若手兼業農家十数名が「愛農会」と称して棚田を共同で米の作付けを行った。それに呼応し、老人クラブで景観作り・草刈りの軽減を目指し畦畔にシバザクラを定植。 ◆「門出かやぶきの里」を拠点とした活動：都市交流や地域文化の継承、小学校の実習田への支援、棚田ボランティアや雪	◆生産組織小津の充実・拡大が最大の課題。 ◆現在集落内に1人いる専業農家の負担が大きくなっていることから、周りの兼業農家がいかにサポートする営農体制を確立するかが課題。	◆新潟県HP http://www.pref.niigata.jp/norin/syokutomidori/gyosei/vison/bumon/cyusankan/jireisyu/images/17.pdf		
96	153851	新潟県	鹿瀬町(2005年合併し、阿賀町に)	荒沢	猿害対策として新規作物を導入	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村		集落	農産物の鳥獣被害が多いため従来からその対策を講じてきたが、いずれも有効な対策とはならなかった。そこで、猿が手を付けられない新規作物(コンニャク)に着目。	集落の話し合いにより交付金を活用して本格的にコンニャク生産を開始し、これが新たな特産品となるよう取り組むこととしている。			◆新潟県HP http://www.pref.niigata.jp/norin/syokutomidori/gyosei/vison/bumon/cyusankan/cyusankan2/index3.html#2	
97	152102	新潟県	松之山町(2005年合併し、十日町市に)	小谷	高齢者、女性を中心とした営農組織	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			◆高齢者(定年退職者)、女性を中心とした集落営農組織を新たに設立し、継続した営農活動の実践に当たることとともに、次世代の後継者で構成される後継者会からオペレーター等の支援を受けることとしている。 ◆ヒメイワダレソウを畦畔に定植することにより、畦畔除草の省力化を推進するとともに、景観形成作物として地域のイメージアップを図っている。			◆新潟県HP http://www.pref.niigata.jp/norin/syokutomidori/gyosei/vison/bumon/cyusankan/cyusankan2/index3.html#2		
98	202037	長野県	上田市	岩清水	遊休農地を復旧し「日本の棚田百選」の景観を保全。自然米の栽培、都市部の生徒の農業体験学習等を実施	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成12年～	2000	集落	◆都市部住民と連携し、農業体験学習、交流等を実施。(埼玉県の高校生徒と「田植体験」「稲刈体験」) ◆「棚田自然米の会」を結成し、無農薬・無化学肥料の米づくりを実施(収穫した米は1人1俵配布し、残った米は市内を中心とした希望者に販売) ◆遊休農地の復旧、環境整備(遊休化している農地に農道の親切を行い遊休農地の解消を図ると共に、そばの作付けやコスモスの植栽等を行う)	◆遊休農地の普及や、水路・農道の維持管理など共同作業、体験学習の受け入れなどを通じて地域としての連帯意識が向上。 ◆都市部住民との連携した取り組みが、協定参加者の励みとなったり、復旧した農地の保全のための貴重な労働力となっている。 ◆そばの花やコスモスが集落に潤いを与え、そば祭を行うところも出てきた。	◆高齢化対策 ◆県外からの参加者は一過性が多く、農業・農村への理解、棚田のPRという点では効果があるが、恒常的に多くの人を確保するのは難しい。 ◆上田市を中心とした「棚田自然米」の購入者が、棚田を保全するためのサポーターとして農作業や様々な活動に参加できるような仕組みづくりに取り組みたい。	◆長野県HP http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/sansin/ueda.pdf	
99	322032	島根県	佐田町(平成17年合併し、出雲市へ)	橋波	費者交流マイスター—佐田町橋波地区での活躍	地域興しマイスター制度	国→都道府県→市町村		集落	農業の六次産業化を目指す。	◆講演の一月後には石見町へ視察に行き、同年十二月には女性九名で「農家レストラン」を開催するに至った。その後も年二回のペースで開催が続いているが、限定期間が六十人のため、毎回お断りをするほど好評となっている。 ◆また、農家レストラン開設の翌年か	地域興しマイスターによるやる気起こしがきっかけとなった。これら活動は集落の新たな取り組みとして定着している。	◆(財)地域づくり活性化センター「月刊 地域づくり」 http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/book/monthly/0409/html/t06.html		
100	255033	滋賀県	余呉町	菅並	栃の実で山村の活性化を!	林業構造改善事業(高齢者生産活動施設整備事業)	林野庁→都道府県→市町村	平成12年	2000	集落	丹生川ダムの直下の集落であり、地元では、「当ダム建設を期に地元の活性化を図りたい。」との思いから、秘伝であった栃もちで活性化を図ろうと、「妙理の里の实加工組合」(組合員17名)を設立し、栃もちの生産を始めた。	◆「妙理の里」は、ダム建設により水没を余儀された上流山村集落の古民家集落の景観に着目し、こうした貴重な地域資源の再生を図ることにより、地域に伝わる文化の保存と伝承を目的として、集落形態を模して整備を進めている。 ◆栃もちは妙理の里で受注生産を行っている(近隣の高速道路サービスエリア、ドライブウェイの販売所等に出荷)。 ◆交流イベント等では、積極的に実演販売も行っている。	◆組合員17名で、製造から販売までの役割分担を決め運営されており、製造部門には、女性が熱心に従事している。また、販売部門は個人から事業者へと、幅広く販売、営業を行っている。 ◆地域の高齢者を対象とした就労の場として役割を果たしている。 ◆平成12年度の栃もちの販売実績は約44,000個(約8,800パック)。	◆販路の拡大、原材料の低価格購入、製品目の拡大等。販路の拡大については、各種イベントによる地域内の消費や県外の観光客を対象とした販売等に今後、力を入れていく。 ◆製品も栃もちだけではなく、栃煎餅の加工についても、開発研究を行っている。	◆林野庁HP http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyokuai/sansou/09-1-5.html
101	033219	岩手県	紫波町	廿木	もち米(もち美人)とナンブコムギを核とした集落取り組み	集荷円滑化対策事業	社団法人米穀安定供給確保支援機構			南日誌地区農業生産組合、南日誌農地利用生産組合	◆もち米・ナンブコムギの生産。 ◆(有)イーストファームみやぎに現地研修を実施した。また、パソコンで複式簿記を始める。			◆岩手県HP「夢と希望集落ビジョン通信」 http://www.pref.iwate.jp/~hp0503/data/dream/dream_13.pdf	
102	185019	福井県	若狭町	下白屋	集落の景観形成とむらおこしに向けた取り組み	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	高齢化と有害鳥獣による農作物被害の拡大により、農地の荒廃が増加。また核家族化による後継者の転出等、集落の抱える課題も多く、地域の活性化が急務となっていた。打開策として、昔の農村風景を復元して農村の活性化につなげようとする取り組みを開始。	◆農作業効率化推進のため、集落内外の担い手や第三セクター等に農作業の受委託を行う。 ◆獣害防止のため電気柵を設置。 ◆転作田を利用し新規特産品の定着を目指す後継者グループがトウモロコシや黒枝豆等の野菜づくりに取り組む。 ◆水田の畦畔にグランドカバープランツを植栽し、集落の景観形成と土壌の流出防止に取り組む。 ◆昔の農村風景を再現するため、水田に農作業風景を象ったモニュメントを設置し、集落の活性化を図る。	◆集落協定での取り組みが住民意識の向上につながった。特にモニュメントについては反響が大きく、住民の郷土に対する誇りと情熱を再認識することができた。 ◆後継者グループによる野菜づくりでは、収穫した野菜を収穫祭等に提供し、好評を博すと同時に、住民の連帯感が強固された。	◆農作業風景のモニュメントは好評であることから、引き続き青年層が中心となり内容を検討し拡大する形で継続する予定。 ◆有害鳥獣対策として設置した電気柵の老朽化による破損が著しいことから共同取り組み活動として区民による修繕を計画。	◆福井県HP https://info.pref.fukui.jp/nourin/chokusetu-shiharai/jirei-pdf/wakasa1.pdf
103	322041	島根県	益田市	板持・セケ田原	将来に向けての集落の取り組み～視察を通して新たな取り組み～	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成12年	2000	集落	◆愛栄町集落営農組織を設立(平成11年度)、水稲期間5作業の受委託契約を結ぶ。 ◆中山間地域等直接支払制度を利用し、水仙の球根栽培に取り組む。14年度広島県福富町へ視察に行き、そのノウハウを活かしエゴマ栽培を実施、更に16年	集落協定を結び共同作業を実施することで集落の話し合いの場も増え、集落全員で協力していくという気持ちがより一層強くなった。	制度の有無にかかわらず今後も集落の将来を考えながら全員で特色ある地域づくりを行っていく。	◆島根県益田市HP「山恵通信」vol.7 http://www.iwami.or.jp/masudasi/top/kurashi/map/nousui/sankei/sankei_7.pdf	

104	192139	山梨県	塩山市(平成17年合併し、甲州市に)	松里第2集落	集落内の連携強化と獣害防止対策の取り組み	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			集落	当制度導入を契機に獣害対策による経営の安定、耕作放棄地の解消と発生防止に向けた活動を実施し、地域農業振興を図る。	◆シカやイノシシによる果樹への被害防止のため、周辺林地沿いに長さ約1km、高さ1.2mの電気柵を設置。更に電気柵の維持と効果を高めるため協定参加者により役割分担を定め、定期点検を月1回、周辺草刈りや補修作業を年5、6回実施。 ◆高齢化により管理が困難になった農地について、受託耕作者を決め、当該農地の管理を行った。 ◆農道等の整備、簡易補修や草刈りの共同作業。 ◆会が中心に野菜の苗を作り、集落内の栽培者へ供給。 ◆長期にわたって遊休していた桑園の抜根整地を平成14年に行い、翌年景観作物と新たな地域特産開発を兼ね備えたブルーベリーの植え付けを実施。 ◆多面的機能増進のために共同で花の苗づくりを行い集落内各所に定植。	◆電気柵の設置により獣害に歯止めがかかり、安心して農業生産活動ができるようになった。 ◆果樹地帯のためこれまで共同作業はあまり行われていなかったが、制度導入により地域内での連携活動の重要性について意識が芽生えた。	水路のない農地が多く、農業生産を行う上での水の確保は重要な課題であり、今後農業用貯水槽等の設置を検討していく。		◆山梨県HP http://www.pref.yamana-shi.jp/barrier/html/noson=sink/images/08941456513.pdf
105	193623	山梨県	諏沢町	鹿島	地域に根ざした地産地消の取り組み	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	昭和63年～	1988	鹿島根っ子の会	高齢化と担い手不足に伴う耕作放棄地の発生が懸念されていたことから、昭和63年に営農集団「鹿島根っ子の会」を結成、共同作業を進めていた。集落全体の取り組みとして一層の推進を図っていくために協定を締結。	◆荒廃しつつあった農地に危機感を感じて組織された「鹿島根っ子の会」の従来からの活動が阿集落全体に浸透した。さらに児湯邸を締結し目的が明確になったことで円滑な活動が進められるようになった。 ◆耕作放棄の発生防止だけでなく遊休桑園を解消することができた。	農作業共同化による労力の軽減や新規作物の導入による収益性の確保をはかりながら、農業生産活動を基本とした集落の取り組みや計画的な鳥獣害防止対策を推進する。		◆山梨県HP http://www.pref.yamana-shi.jp/barrier/html/noson=sink/images/66450488800.pdf	
106	372064	香川県	さぬき市	川北	さぬき市長尾における集落営農の取組		農協、さぬき市等	平成14年	2002	川北営農集団	農業者の高齢化と担い手不足の対応として。		◆麦作の規模拡大 ◆法人化を視野に入れた活動に取り組む。	川北営農集団は、設立までに時間を要したが、熱心な代表者がリーダーシップを発揮し、水稲や地力増進作物(セソバニア)の共同作業も実施した。	◆香川県HP http://www.pref.kagawa.jp/agrinet/dougubako/center/katudou/15/pdf/35.pdf	
107	313904	鳥取県	伯耆町	岩屋谷	法人岩屋谷農場の経営安定による集落活性化プラン			平成16年	2004	農事組合法人岩屋谷農場	圃場整備が完了したが、高齢化・後継者不足による農業経営の困難さに直面したため、その打開策として法人化による一集落一農場勢体制にチャレンジすることとした。		◆法人としては自己所有の農業機械がないため、自己所有の機械の整備を行う。 ◆後継者づくり		◆鳥取県HP http://www.pref.tottori.jp/secure/74597/iwaya.pdf	
108	182010	福井県	福井市	高須	高須集落活性化モデル推進協議会(平成17年度 豊かなむらづくり表彰事業 北陸農政局長賞)	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村			高須集落活性化モデル推進協議会	過疎化・高齢化・担い手不足等から、このままでは集落が崩壊しかねないため、中山間地域等直接支払交付金制度をきっかけに集落のリーダーが中心となって高須集落活性化モデル推進協議会を設立。集落を出ている者も将来戻ってくるという合意のもと、活性化策の検討を行い活動を開始した。	◆農道やパイプラインの設置など計画的に推進し、生産基盤近代化に努めている。また、育苗乾燥施設を導入したり、担い手への農作業を募集し効率化にも努めている。 ◆棚田オーナー制度の導入 ◆新たなブランドづくり(ハウスでイチジクのポット栽培) ◆町内会との連携(集団検診を継続) ◆女性・青年によるむらづくりへの参画		高須町の次代を担う青年(市街に出ている青年と町内に住む青年約10名)が「高須を創造する会」を創設し、町の将来や活性化について考える取り組みも始まっている。	◆農林水産省 北陸農政局HP http://www.hokuriku.maff.go.jp/news/plan/mura/h17fukui.html	
109	313904	鳥取県	伯耆町	間地	地域資源を活かした村づくりと世代間交流	中山間地域活性化交付金事業	鳥取県				◆関金町の方を呼んで講演会を開催。先進地視察(新見市、清流遊YOU村など)で勉強。 ◆山野草栽培 ◆加工品づくり(林耕田を活用して集落での大豆の共同栽培を始める。 ◆ふるさと交流会(集落へのUターン効果を期待して、集落出身者とその家族を招き、マスのつかみ取り、村の豚でのBBQをおこなった。)	◆女性が集落の会合に出て発言したい。 ◆他地域と交流し、情報発信をしていきたい。 ◆間地の奥にある旧出雲街道の草刈りを総合事務所と一緒にボランティアで行ったのをきっかけに街道茶屋の復活をしたいと、まちづくり日野、日野町、日野郡広域観光協議会の方などと協力して話を進めている。手始めに「茶屋ウオーク大会(仮称)」を開催する予定なので皆さんもぜひ参加していただきたい。		◆鳥取県HP http://www.pref.tottori.jp/kikakubu/chusankan/jirei/jireihappyoukai.htm		
110	152013	新潟県	新潟市	坊金	中山間地域等直接支払制度を利用したむらづくり	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	昭和50年～(協定締結は平成13年)	1975(2001)	集落	◆過疎化・高齢化が進むなか集落が崩壊するという危機感から、昭和50年という早い時期に成壮年会を設立し、農業の持続と集落の活性化に向けた取り組みを始めた。 ◆平成13年3月に中山間地域等直接支払交付金制度を契機として集落協定を締結し、農地の保全と集落活性化事業に取り組む。	◆坊金生産組合が主体となり、育苗事業を中心に20ha規模の作業受託を行う。 ◆平成12年度から直接支払交付金制度を活用し、耕作放棄された農地をそば畑に造成。新潟市周辺よりそばオーナーを募り30名がオーナーとなり、種から収穫まで一連の作業を行い交流を深めている。 ◆女性組織「ほのぼのグループ」では自ら栽培したきゅうりやなす等の野菜を漬物にして「ほのぼの漬け」と命名し交流施設内で直売。東京等で開催されるイベントにも積極的に参加し販売。 ◆「越後田舎体験」事業に参加(修学旅行生など受け入れ、農家民泊や農作業体験)	条件不利地での営農の継続、自然保護活動や都市住民との交流などが豊かなむらづくりに大きく貢献した。	平成17年度 豊かなむらづくり表彰事業 受賞地区	◆農林水産省 北陸農政局HP http://www.hokuriku.maff.go.jp/news/plan/mura/h17nigata.html	
111	324418	島根県	川本町	三原	「そばの里三原」で地域の活性化	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成12年～	2000	集落	当集落は高齢化の進展と後継者や担い手の不足により、土地の遊休・耕作放棄地化も懸念されるため、転作農用地の利用率アップの具体策や各戸が所有する農業機械の更新調整を集落の課題として捉える。	◆そばの栽培、共同購入した製粉機を活用しながらそば打ち体験教室を実施。 ◆集落内の非農家等と連携した農産物加工、販売。	◆地場産農産物等の加工・販売のための加工施設の設置及び産直市の開設 ◆集落内非農家や他集落との連携活動 ◆転作面積の50%以上の農産物生産を目標とした定着化と連担化への活動 ◆集落農用地の利用権設定30%を目指し、集落営農の実現を図		◆農林水産省 中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/chusankan/jirei17/8-03.htm	
112	043249	宮城県	川崎町	古閑	転作のそばを通じた地域の活性化	中山間地域直接支払制度	農林水産省→都道府県→市町村	平成12年～	2000	集落(農業者、みちのくそば生産組合、水利組合、古閑愛隣)	転作のそばを通じて地域の活性化を目指す。	◆有志3人からなる「みちのくそば生産組合」による作業受委託が進展。 ◆「そば祭り」開催	◆集落協定での活動により集落の連帯意識が高まった。 ◆そばの転作により農業生産意欲が高まった。 ◆農地の貸し借りが活発になった。	将来の夢は、古閑名物「そば御膳」へ。	◆宮城県HP http://www.pref.miyagi.jp/muradukuri/h_chusan/01/jireisyuu/h14/kawasakifuruseki.pdf	
113	042129	宮城県	津山町(平成17年合併し、登米市に)	沢田	集落の自立を目指して	①中山間地域直接支払制度②モデル構築推進指導事業	①農林水産省→都道府県→市町村②宮城県	①平成12年②平成14年	①2000②2002	集落	米の生産調整開始により増加していた遊休農地を活用しトウモロコシを栽培。町内の道の駅で直売。	◆直売のトウモロコシは大好評で即日完売。農地の有効利用、就労の場の確保、消費者との交流につながった。 ◆協定参加者による共同活動や話し合いの活動が増え、集落が活性化された。	◆集落に遊休農地がなくなることを目標に農地の有効利用を進める。 ◆集落活性化計画書「沢田集落自立への道しるべ」を策定し、法人化を視野に入れた集落組織の再編を進め、交付金がなくとも自立可能な集落の農業経営を確立することを	◆宮城県中山間地域活性化推進協議会「みやぎふれあいネット」HP http://www.net-miyagi.org/tyoku-hyousyou/sawada.pdf		

114	313645	鳥取県	三朝町	福山	福山活性化プロジェクト			平成7年～	1995	集落	高齢化と人口減少が進む中で、集落の存続が大きな課題。そこで集落の豊かな自然環境を始めもち米の生産などで、活力ある村づくりをしようとする「福山活性化プロジェクト」を平成7年に設立。	◆福山ホテルの里交流会(H8～):ホテル観賞会を実施。福山おこわ、手作り豆腐、三五八漬け、もちなど福山の手作り産品を販売するほか、人形劇の上演や野外コンサートなどを行う。 ◆もちの加工販売 ◆農業の若い担い手の育成:農地の保全を図るため、認定農業者を中心に集落営農に取組む。	◆村づくりの取り組みを通して話し合いの機会が増え、集落全体のコミュニケーションが活発になった。 ◆ホテルの里交流会では集落総出で準備、運営を行っていたが、最近では集落出身者が手伝いに来るなど思わぬぬがりを見せている。 ◆正月もちやかきもちづくりは冬場の恒例行事となり、女性会を中心に取組んでいる。	人口の減少、高齢化が進む中、交流会等イベントが拡大化し、開催の労力が不足している。	◆鳥取県三朝町HP http://www.town.misasa.tottori.jp/site/page/allindex/nouson/mura/fukuyama2/fukuyamakasseika/
115	073679	福島県	只見町	布沢	「森林の分校・ふざわ」		只見町	平成8年～	1996	集落住民、町役場	廃校になった布沢分校を体験型グリーン・ツーリズムを利用して布沢集落の活性化に繋ごうと整備。体験の先生はすべて集落の人。大自然満喫と史跡めぐり、分校に泊まって集落でとれたものを食べ、ホテルを見、星空を見て友と語れる出会いの場。	都市と集落の人の交流がどんどん増えている。	廃校になった町立光明小学校布沢分校を平成8年に体験宿泊施設として改修し、平成9年から地元布沢集落の皆さんが管理運営。	◆福島県HP「南会津のうりんニュース」 http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiidu/n-news/12/page5.htm ◆福島県 只見町HP http://www.tadami.gr.jp/	
116	163236	富山県	立山町	虫谷	美味米づくり体験でグリーンツーリズム	都市との交流による農山村地域の活性化に関する条例(富山県)	富山県、立山町			集落	人間交流の試みとして	◆米づくり体験(田植えや稲刈りの仕方を住民が教えて一緒に行う) ◆昼食は、集落の女性が総動員で行った。	募集をかけたところ、富山市などから9家族35人が集まり、村ににぎわいももった。	富山県では、今年度「都市との交流化による農山村地域の活性化」に関する条例を制定。これに伴い、立山町東谷地区がグリーンツーリズム推進の重点地域指定を受けた。県の協力体制も加わり、グリーンツーリズムを実施する基盤が整った。	◆富山県立山町HP http://www.town.tateyama.toyama.jp/green/kanosei1.html
117	052035	秋田県	横手市	下矢来沢	十二性担い手生産組合		JA秋田ふるさと、横手市役所など	平成11年～	1999	十二性担い手生産組合(集落営農)	平成11年のほ場整備事業で1haとなり、この完了をきっかけに、大規模ほ場となったことで個人の営農では対応し切れなくなった。	◆出役労賃はオペレータと補助員に格差を設け、繁忙期の休日には組合員はもちろん、高校生等の学生も出役し、集落全体で作業に参加する。 ◆水稲、大豆、菊、飼料作物	近隣集落でも、高齢化等から農地管理が大きな課題となっていることから、来年1月には特定農業法人を立ち上げ、集落営農の広域化を図り、経営規模の拡大・生産方式の合理化・経営の複合化の確立に取り	◆日常の維持管理が困難な高齢農家の所有農地は、全て組合が引き受け水管理や除草等もやることとした。 ◆また、利用権設定し、貸し付ける方法をとることとした。	◆農林水産省HP http://www.jri.maff.go.jp/jirei/doc/2005/001/015.html
118	242047	三重県	松阪市	藤之木	農事組合法人コスモス			平成8年～	1996	農事組合法人コスモス	ほ場整備事業の完成を機に①21世紀に生き残れる集落営農システムづくり②明るい、美しい、住みよい地域社会づくり③村の良さを伝える文化の郷づくりを目的に全戸参加型の集落営農組織「藤之木生産組織」が設立。	◆毎年、収穫祭を開催。 ◆コープとの契約栽培をし、集落の行事や、田植えなどの体験交流を実施。 ◆平成16年よりレクリエーション農園を開設。 ◆地元の中学の体験授業「わくわくワーク」を受け入れ、農業への理解を深める機会としている。	◆5～6年経過すれば集落内の年齢構成も変化していくので、時代に合わせて全員で話し合い、いちご栽培(6ha)以外の農地全てを一農場としていきたい。 ◆農家でも米作りを知らない世代がでてきたことから、集落以外の阪内川左岸土地改良区(117ha)の土地も視野に入れていく。	◆農林水産省HP http://www.jri.maff.go.jp/jirei/doc/2005/001/062.html	
119	352152	山口県	周南市	中須北	棚田清流の会	県のむらづくりソフト事業	山口県	平成10年	1998	棚田清流の会	先人達が築き守り続けてきた財産である棚田等を再生させ地域の活力を取り戻したい。	◆住民の総意で創った「やすらぎの里づくり憲章」に基づき、非農家・高齢者を含め棚田等の景観保全や地域の環境整備、地域内での交流を深める行事等様々な活動や行事を実施。 ◆「自然米」で棚田のファンづくり ◆フォトコンテスト	◆棚田のオーナーとの交流や農業体験交流などの活動が「中須の棚田米」ファンの拡大や契約栽培の増加へと繋がっている。 ◆平成17年度「豊かなむらづくり」優良集団 農林水産大臣賞	県のむらづくりソフト事業により、平成10年から「くらしの創造委員会」が設置され、人口・年齢構成や土地利用状況等の集落点検によるマップ作りに取り組んだ。この「点検マップ」作りがむらづくりのきっかけとなっている。	◆中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/nouseikyoku/muradukuri/17mura/17-2seiryu.htm
120	313645	鳥取県	三朝町	今泉	泉の里とんがり倶楽部 住民全員参加の村づくり			平成12年	2000	集落(泉の里とんがり倶楽部、農事組合法人泉の里生産組合)		◆「泉の里生産組合」による集落営農:特産品の販売商品も充実 ◆「泉の里くせい工房」:新たな特産品 ◆地域食材を使った「とんがり食堂」	◆住民総出演の村づくりの活動は、就業機会を創出し8名の若者の定住に繋がっている。 ◆平成16年度「豊かなむらづくり」優良集団 農林水産大臣賞		◆中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/nouseikyoku/muradukuri/16mura/16-tongari1.htm
121	336815	岡山県	吉備中央町	上田西	上田西百姓王国 みんなで創ったおもてなしの村づくり			平成8年～	1996	集落	農業後継者不足、過疎化が進む中で、美しい環境条件を活かした積極的な都市と農村、生産者と消費者の交流を通じた村づくり	百姓王国:主要農家を米大臣、ブドウ大臣、野菜大臣等12の大臣に任命し、「石堂フルーツパーク」、「王様イチゴ園」等の農園や交流の拠点施設である宿泊研修施設「ひだまり」との連携で幅広い農作業体験の受け入れ体制を整備。			◆中四国農政局HP http://www.chushi.maff.go.jp/nouseikyoku/muradukuri/16mura/16-ueda1.htm
122	155811	新潟県	関川村	中東	中東元気づくり実行委員会	緑の山里・いきいき夢プラン事業	新潟県	平成12年(県事業は平成14年度)	2000	中東元気づくり実行委員会	過疎化・少子高齢化に悩まされていた中東集落は、今後の集落活性化について平成12、13年とアンケートを実施。その結果をふまえ、14年度に県単独事業の「緑の山里・いきいき夢プラン事業」を活用し「中東地域ビジョン」を策定。	◆認定農業者を中心に「中東有機農業生産組合」を設立。農地を集積し、耕作放棄地の発生を抑制。 ◆田植え・稲刈りツアーの受け入れや光苑山登山、中東収穫祭を開催 ◆「ホテルの里づくり」	地域ビジョンを作成し、都市住民との交流で集落に活気をもたしている点や、耕畜連携による特別栽培米への取り組みにより所得の向上を図っている点などが豊かなむらづくりに大きく貢献した。	畜産農家から堆肥を提供してもらい水田の土づくりに使用するとともに、畜産農家へは飼料として稲ワラを提供することで耕畜連携システムが確立され、これによる特別栽培米に取り組み所得の向上を	◆北陸農政局HP http://www.hokuriku.maff.go.jp/news/plan/mura/h18nigata.html
123	074217	福島県	会津坂下町	谷地	谷地生産組合	国営かんがい排水事業、国営圃場整備事業	農林水産省、福島県	平成11年～	1999	谷地生産組合	国営事業等の実施を契機に「集落の農地は集落で守る」を基本理念とし、集落内全ての水稲の基幹作業と転作の全作業を請け負う谷地生産組合を設立。	◆「一集落一農場」方式を実現。 ◆機械の共同利用、小麦、アスパラガス(高齢者労働力の活用)の栽培。 ◆農協とタイアップし酪農家の堆肥、集落内の籾殻を有効活用した「資源循環型農業」にも取り組む。	法人化へ向けての準備	◆農林水産省HP http://www.maff.go.jp/nouson/signet/einou/hyosho_db/pdf_file/h200302.pdf	
124	223441	静岡県	小山町	湯船	元気で明るい活力のある集落を目指して	中山間地域直接支払制度、中山間地域総合整備事業	農林水産省→都道府県→市町村			集落	高齢化のため人手不足、後継者不足の問題に取り組む。魅力ある集落づくりを目指す。	◆集落内農家で「農事組合法人湯船青空会」が設立され、農業生産の協業を図る。 ◆鳥獣害防止策の電気柵の設置、法面にアジサイを植栽。 ◆水稲ロングマット水耕苗を試験的に導入し、環境に優しく作業の効率化と生産性・収益性を兼ね備えた高付加価値型農	水かけ菜のオーナー制度や収穫体験活動の導入し、周辺地域の住民や都市住民との交流を深め、集落の魅力を発信することにより、高齢化による人手不足や後継者問題を解決し、今以上に元気で明るい活力のある集落を目指していく。	◆静岡県HP http://www.pref.shizuoka.jp/nousei/ns-19/chokusetsu/documents/08oyama-town-yubune_000.pdf	
125	222038	静岡県	沼津市	江梨	他事業を活用した集落全体を守る有害鳥獣防護柵の設置	中山間地域直接支払制度、県単独鳥獣害防止対策事業	農林水産省→都道府県→市町村			集落	高齢化の進展が著しく慢性的な担い手不足となり、営農意欲も低下。集落が一つとなって作業に取り組む、共同で農地の維持管理を行う。	◆地域を囲む電気柵を設置したことにより、イノシシによる被害額が大幅に減少。 ◆耕作放棄地の発生が解消され、農地周辺の管理が徹底された。	◆県道との交差点の電気柵をどうするか。 ◆イノシシが減少したとき、好物の獲の害が増える懸念。	◆静岡県HP http://www.pref.shizuoka.jp/nousei/ns-19/chokusetsu/documents/05numadu-city-enashi_000.pdf	

126	223051	静岡県	松崎町	石部	棚田の復原とオーナー制度を活用した集落の活性化	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→一市町村	平成11年～	1999	集落	農業から観光民宿業への転換や耕作者の高齢化、担い手不足により、集落の棚田の90%以上が耕作放棄。棚田に稲穂が揺れる昔の活気を取り戻すため、石部棚田保存委員会を設立し、棚田の復原に取りかかった。	◆石部棚田保存委員会を中心とした荒廃した棚田の復原。 ◆国・県の補助事業採択により、農道・水路の整備・補修、水車小屋・交流棟の建設が進む。 ◆棚田オーナー制度	◆現在ではオーナー制度の定着により年々参加者が増えている。 ◆各地に「石部の棚田」を情報発信することにより、地区民宿への民泊利用の向上につながり、さらに古代米を原料とした焼酎、饅頭、パン等の加工品の販売に向けた商品開発への取り組み	地区住民による活動だけで現状以上に棚田の耕作を行うのは限界があるため、平成17年度からは担い手の育成に取り組み、農地集積を図っていく。	棚田の保全活動には相応の資金が必要なため、交付金の活用や棚田オーナー制度による会費、町補助金等を財源としている。	◆静岡県HP http://www.pref.shizuoka.jp/nousei/ns-19/chokusetsu/documents/04matsuzaki-town-ishibu_000.pdf
127	222020	静岡県	浜松市	下阿多古	(株)フジヤマと「地域の農業を考える会」が協働活動	一社一村しずおか運動	静岡県	平成18.11.12	2006	「農業を考える会」(住民)と企業((株)フジヤマ)との協働	地域が必要としている人手を企業が手伝う。	遊休農地対策や地域おこしの一環として、同会が栽培している大豆の収穫作業と菜の花の種まきを行った。	農作業を朝早くから夕方までみっちり行い、地域にとっても大変助かる活動だった。	この取組を契機として、継続的・発展的に今後も活動を行っていく。	北遠農林事務所が山間地域での社会貢献活動を進めたいとしていた(株)フジヤマと、地域活性化の活動を精力的に行っている「農業を考える会」との橋渡しを行った結果	◆静岡県HP http://www.pref.shizuoka.jp/nousei/ns-19/issyaisson/example/fujiyama.html
128	222119	静岡県	磐田市	岩室	天下一品の次郎柿を企業との協働で守る	一社一村しずおか運動	静岡県				高齢化、後継者不足のため、危機にある農地が増加。一方で、袋井市で結婚式場を営む方は「周りには、会社を定年退職して時間に余裕がある人が多い。このような人たちと一緒に健康的で、家族や友達、地域の人達と仲良く楽しく、生きがいを感じるような仕事はないだろうか？」と考えていた。このような、両者が出会い、協力して、新	柿園と一緒に守ってくれる柿園サポーターを募集し、同時に柿のオーナー制度をはじめ。柿園サポーターや柿オーナーの募集、そして取れた柿の栽培は、企業が持つ人的ネットワークを活用して安定的に販売される。	農村集落が持っていない「人的ネットワーク」「企業のアイデア」を上手く活用しながら、農村の資源を守り、より良いものとしていくことができる事例。		本格的な運営は2006年4月からだが、2005年の秋は、試行的だが、570kgを企業のネットワークを活用して販売している。	◆静岡県HP http://www.pref.shizuoka.jp/nousei/ns-19/issyaisson/example/example01_a.html
129	442119	大分県	安心院町(平成17年に合併し、宇佐市に)	松本	イモリ谷	中山間地域等直接支払制度	農林水産省→都道府県→一市町村	平成12年	2000	集落	地域の将来に向けて	◆大豆の集団転作をきっかけに松本営農組合を設立。作付、作業委託、共同利用農業機械の購入を行う。 ◆安心院松本イモリ谷苦楽分:集落内にあったサークルを網羅し集落内はもとより集落を越えた仲間づくりを行う。	◆平成14年には大分市での集落のアンテナショップ「豆の力屋」をオープン。集落の生産物を販売する場として活用され、高齢者や女性の自給的農家に活気がでた。 ◆平成16年には直売所「大きな豆の木」を設置、レストランやグリーンツーリズムの拠点として期待される。	◆営農組合の呼びかけで新たに「いきいき松本生産販売部」「炭焼き組合」が結成される等、必要に応じ委員会や部会を結成。現在では町内に23ある営農組合のリーダーとして「安心院町営農組合協議会」でも活躍。 ◆平成16年度「農林水産祭		◆農林水産省HP http://www.maff.go.jp/nousei/seisaku/21j/matsuri/h16/tennou.pdf
130	454311	宮崎県	美郷町	椎野	花の咲いた集落「椎野あじさいロード」					集落	約20年前、地区の観光名所である中小屋天文台やスカイロジック銀河村が完成し、地区の中心と観光地を結ぶ椎野集落にも観光客が往来。そこで、集落を通る客の目を楽しませようと、地域住民が自宅の庭に咲いていたあじさいを道路に植栽しはじめた。	あじさいを道路に植栽する活動は徐々に集落内へ浸透し、あじさいの数も増え、「椎野あじさいロード」ができた。現在では集落の大半が参加し、年間を通じて周辺の草刈り、剪定、肥料まきなどを行っている。	「椎野あじさいロード」は全町7キロに渡って3万本のあじさいが咲き誇る道となり、最盛期の1ヶ月間におよそ1万人の観光客が訪れる。椎野集落のような過疎地域でも観光客を呼ぶことができる、という喜びと自信に繋がっていることが、これらの活動の大きな効果である。	◆この「椎野あじさいロード」に影響を受け、地域内ではそれぞれの特色を活かし、「彼岸花ロード」、「やぶ椿群生地保全」、「さざんかロード」などの活動が始まり、周辺地域への波及効果もみられる。 ◆平成18年度美の里づくりコンクール 農林水産大臣賞を受賞。	◆(財)農村開発企画委員会HP http://www.rdp.or.jp/binosato-kon/h18binosato/miyazakikenn-misatomati.htm	
131	032077	岩手県	久慈市	成谷	成谷自然食の会	成谷自然食の会(集落の女性有志による)				成谷自然食の会	農繁期の収入確保と地域振興を目的とするグループとして起業された。	◆そばやまめぶ、豆腐田楽など、雑穀食文化圏の郷土食を広めるために、観光客等への「ふるさとお膳」としての提供。 ◆ゆうパックによる通販。 ◆菓子店やホテルへの卸販売、学校給食への提供。 ◆そば打ち体験等の受入れといった活動を展開。	◆結成後10年を越え、メンバーは50～70歳代が中心となったが、30歳代の若手も加入しており今なお活気を失っていない。 ◆起業活動や消費者との交流の面で県内の女性グループの先進事例、参考事例となっており、山あいの小集落全体の活性化、集落住民の自信につながっている。		平成18年 食アムニティ・コンテスト 優秀賞(農林水産大臣表彰)受賞。	◆(財)農村開発企画委員会HP http://www.rdp.or.jp/h18syoku/iwatekennkuji.htm
132	032026	岩手県	田老町(平成17年合併し、宮古市に)	青倉	昔の暮らしを思い出し心を合わせてつくるむら	「手作りの村整備事業」、「地域農業集団事業」		昭和58年	1983	青倉地区自治会		◆昭和59年頃から味噌づくり研修と味噌の試作を行い、商品化に向けて取り組みを始めた。 ◆昭和61年には、青倉地区農業振興会、さらにその加工部会を組織し、「青倉みそ」の製造を開始。 ◆「けげだす村工房まつり」(平成9年～)は、年ごとに大きくなり、今は田老町の秋の行事に。	◆平成11年に「いきいき中山間賞」の知事賞を受賞。 ◆青倉地区に触発され、やめようとしていた地域活動を継続した地区があったり、近隣町村の小さな集落でも、イベントや特産品開発が活発化したりということが起こっている。		「昔をけげだせ」「けげだせ」とは、この地方で「思い出す」という意味。	◆岩手県HP いわて地域づくり情報誌「ORIZA」65号 http://www.iwate21.net/oryza/oryza65/tarou.htm
133	454419	宮崎県	高千穂町	五ヶ村	五ヶ村地区むらづくり協議会	プラスワンむらづくり支援事業	宮崎県			五ヶ村地区むらづくり協議会		◆公民館活動の中にむらづくり推進協議会を作り、各部門毎に神楽保存、老人クラブ、青年部、婦人部、村おこしグループ、産業部等の部会を作って住み良い村づくりに取り組む。 ◆平成6年に集落内に「天岩戸温泉」のオープンをきっかけに飲食施設や宿泊・イベント施設を地元住民でオープン。 ◆「五ヶ村地元学」を開催。 ◆刈干切り体験ツアー、タケノコ掘り体験 ◆「家庭料理大集合」の開催。 ◆夜神楽体験ツアー等の各種交流事業の実施。	◆特に活発なのが村おこしグループで、メンバーを中心に集落全体で夜神楽体験ツアー等のイベントを開催。都市交流を図る。 ◆施設で地採り食材を利用した料理の提供や野菜の直売を行うことで地域の活性化と農家の所得向上につなげている。	◆これからもそれぞれの部会が協力し合って明るく活気のあるむらづくりを目指す。	◆平成17年度 むらづくりコンクール(宮崎県)「むらづくり大賞」受賞。	◆宮崎県HP http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000045819.pdf